白亜通信

2023.12.22　No.43

HAKUA TSŪSHIN

岩手県立盛岡第一高等学校白亜同窓会事務局

復活

できないことが当たり前になっていたこの3年。
やっと「行動制限のない日常」が戻ってきた。
歓声が、歌声が、そこかしこに響く。
喜びとともに高らかに。



目 次

p.4 …… 同窓会だより
p.5 …… 高校時代に熱中したことが…
p.6 …… 総会記念講演
p.8 …… 愛すべき街「盛岡」
p.14 … 海外派遣「白堊の翼」報告

白堊祭一般公開

白堊パレード

応援旗祭

総会懇親会

〒020-8515　岩手県盛岡市上田 3-2-1　　TEL・FAX (019)624-0765(白堊記念館)　　mail：info@hakua1880.jp　　TEL (019)623-4491(学校)
http://www2.iwate-ed.jp/mo1-h/(学校)　　https://hakua-dousoukai.jp/(同窓会)



共に叫ぶ

白聖同窓会会長　藤尾 善一（昭和45年卒）

松葉一針に白露滴たる秋色深まる日、143周年記念白聖同窓会が、昭和26年卒業のO、S両大兄を筆頭に多くの熱き心意気の同窓生の参集の下、盛大に開催されたところです（詳細は「総会報告」をご覧ください。）。担当年次の平成９年卒の皆さんと講演者の石木寛人さんにはたいへんご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、宴もたけなわの頃、Mさん（昭和47年卒）が耳元で、ある短歌を囁きました。

風さむき岩手のやまに　われらいま
校歌をうたふ先生もうたふ

続けて「宮沢賢治（大正３年卒）先輩が詠んだのです。彼も校歌を歌ったんですよ、岩手山登山で。校歌が出来たのは明治41年で、彼はその後の入学ですからね」と賢治研究家でもある彼はほほ笑みながら解説してくれました。

頂上を極め、遥か下界を望んだときの充足感ときわやかな青春の高揚感の発露が友人たちとの校歌の斉唱になったと思われます。

「白聖校百年史通史」によれば、明治43年、彼は中学２年時に先生とともに岩手山登山をしたとありますので、詠んだのはそのときかもしれません。

岩手山の山頂で「軍艦行進曲」の校歌を先生と共に叫んだ彼らの声が聞こえてくるような気がします。

同じく通史には、明治41年、「六百の人達に共通して共に叫ぶ」校歌が求められている気分が学校にある中で、５月13日の創立記念日の茶話会で、当時５年生の伊藤九万一（明治42年卒）が自ら作詞し佐香貞次郎（明治43年卒）が選曲した校歌を披露したところ、校長が希望して檀上で独唱を試み、その後校庭で全員が合唱したとあります。校歌は、まさに生徒たちによりつくりあげられた生徒たちのものであり、まさしく白聖校の伝統である「自主」の象徴でもあります。

白聖校的変容を重ねて生み出された勇壮かつ荘重な独特な格調に乗せた４節の歌詞を共に叫ぶことにより、友の前進を励まし、或いは自らを奮い起こし、或いは青春の遠景に思いを馳せるなど、それぞれのとき、それぞれの胸に去来するものは様々ですが、ともに叫ぶ刹那は母校への共感と誇りが覚醒され、同窓生の絆を広くかつ太くするに違いありません。

当然のことながら、今年の本会も４年ぶりにみんなで校歌を腹の底から共に叫ぶことができたところです。

我々は脈々として受け継がれてきたこの歴史的個性を誇りとし、将来にわたりいたるところで先輩後輩分け隔てなく校歌を共に叫ぶ機会を持ち続けたいものと存じます。

わが同窓会は、来年いよいよ100周年を迎えることと相成り、記念行事なども予定しておりますが、今後におきましても全ての同窓生と連帯し、後輩の育成と母校の発展のための活動に努めて参りますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。



人・言葉との出会い

校 長　高橋 一佳（昭和58年卒）

同窓生の皆様には日頃より本校の教育活動にご理解、ご支援を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

縁あって再び母校に勤務することとなりました高橋一佳と申します。花巻の出身で、昭和58年の卒業、自彊寮で３年間を過ごしました。振り返ってみると一高で出会った人や言葉は、私に大きな影響を与えたと感じます。私事にわたりますが、その幾つかを紹介し、挨拶に代えさせていただきたいと思います。

１年生の応援歌練習のとき、一人の上級生に、「一高の校訓は？」と問われました。私はすかさず「忠実自彊、質実剛健」と答えました。その先輩は、「その通りだが、俺は『自主独往』こそが一高の校訓にふさわしいと思う」と話しました。中学校を卒業したばかりの私は、「自主独往」という言葉を知りませんでした。そのことを恥ずかしく思うとともに、“一高生としてのあり方を真剣に考えている先輩、自分の主義主張に基づいて行動する先輩”がいることに驚き、“とんでもない人たちがたくさんいる学校だ”、という思いを強くしました。先輩は精神的に成熟した近づきがたい存在で、自分が２年生・３年生になったら、あのようになれるのだろうか、と自分のことを心もとなく感じたものでした。

自彊寮の食堂には、「和而不流」の扁額が掲げられていました。ご承知の通り、山屋他人海軍大将が揮毫したもので、『中庸』を出典とすると言われています。“まわりの人と協調しながらも、他人の意見に流されず、自分の主体性を保ち続けること”は容易なことではありませんが、寮の生活では、「和而不流」を意識する場面が多くありました。舎監の先生方から普段の生活や寮運営について具体的な指導はほとんどなく（随分悪さもしましたが、お目こぼしいただいて）、寮の運営方針や行事の企画、新入生への指導など、寮生で話し合い、実行していました。寮生は、「自治」に「自負」をもって生活していたと言ってもいいでしょう。それゆえ、お互いの主張がぶつかり合い、折り合いをつけることに苦労する場面も少なくなく、時には、夜遅くまで真剣に議論することもありました。そのような生活を通じて「和而不流」という言葉は、自然と寮生の心に刻まれていったように思います。

自彊寮の舎室の壁、押し入れの内側などには夥しい数の「落書」が残されていました。（『自彊寮百年史』から「落書」の例を拾うと、「自分を律することができないものは寮生ではない」「独立心をはぐくめ！」「明日という日はないと覚悟して今日を必死に生きよう」「机に向かえば向かうほど合格が確実に近くなる」等々があります。）当時、その「落書」を眺めることがよくあり、共鳴・共感するものがたくさんありました。見るともなく見ていると、悩み、苦しみ、迷いながら懸命に高校生活を送っていた先輩の息遣いや生き様がありありと浮かんでくるように感じました。それらは、単なる「落書」ではなく、生々しい力が込められた言葉でした。そして、会ったこともない先輩が時空を超えて私を慰め、励まし、後押ししてくれるようにさえ思えたものでした。

あれから40年、生徒の気質や生徒を取り巻く環境は大きく変わりました。しかし、生徒が人や言葉との出会いを通じて成長していくことに変わりはありません。本校に赴任し、生徒が様々な出会いを通じて人間的に成長していける学校であり続けなければならない、という思いを強くしています。

総会報告

平成9年卒　年次代表　小玉 豪

令和5年10月14日、白聖同窓会総会がホテルメトロポリタン盛岡本館にて開催されました。懇親会を含めた完全な形での実施は4年ぶりになります。当日は126名の参加があり、久しぶりの再会もあるなど楽しい時間となりました。なお、全体の司会は柏葉公平さんが務めました。

第Ⅰ部総会では、議事に先立って、藤尾善一同窓会会長より白聖同窓会が来年100周年を迎えること、また会費納入方法が拡大することについてお話がありました。次に高橋一佳校長より現在の盛岡一高の様子が紹介されました。進路実績や部活動の活躍のほかに、コロナ禍のため延期になっていた應援旗祭の実施報告がありました。以前の日常が徐々に戻りつつあることがうかがえます。

議長は小原亜季子さん、副議長は松田俊記さんが務めました。今回注目されたのが、第5号議案「同窓会費納入方法の変更について」です。ゆうちょ銀行のみでの払い込みとなっているものを、コンビニ払いおよびキャッシュレス決済も可能とする方法に変更することが承認されました。また、第6号議案では3月に退任された梅津久仁宏前校長に顧問を委嘱することが承認されました。

第Ⅱ部は、同期である国立がん研究センター中央病院緩和医療科医長石木寛人さんが「受験勉強の30年先にあるもの」と題して記念講演を行いました。前半は石木さんの専門である緩和ケアについて、後半は彼が級友の佐藤英貴さんに刺激を受け、いかに自分の学習習慣を突き詰めていったかについてのお話でした。凄まじいエピソードの連続に会場全体が圧倒されていました。詳しくは記念講演のページをご覧ください。

第Ⅲ部懇親会は小川惇さんによる乾杯のご発声ではじまり、各支部の方々からのスピーチもあるなか和やかな雰囲気で進行し、最後は菅原良和さんのリードで校歌を高らかに斉唱しお開きとなりました。

会終了後、我々平成9年卒は恩師である千葉研二先生を囲んで打ち上げを行い、旧交を温めました。高校時代の三年間がどれだけ濃密なものであり、現在の自分の礎になっているかを実感しました。当時の恩師とほぼ同じ年齢になった今、どれだけ近づき得ているか心もとないところではありますが、盛岡一高で学んだことを糧にそれぞれの場所で頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、総会の準備にご尽力いただいた同窓会事務局の皆様に感謝するとともに、同窓会および母校盛岡一高のますますの発展を祈念し報告といたします。






令和5年度白聖同窓会役員

会長	藤尾 善一	（昭和45年卒）	留任
副会長	林 晶彦	（昭和46年卒）	留任
副会長	髙橋 瑞隆	（昭和52年卒）	留任
副会長	千葉 史	（昭和60年卒）	留任
副会長	西野 文香	（昭和61年卒）	留任
副会長	高橋 一佳	（昭和58年卒）	新任（校長）
監事	工藤 重信	（昭和50年卒）	留任
監事	高橋 宏弥	（昭和53年卒）	留任
監事	斎藤 正義	（昭和54年卒）	留任

常任幹事長	澤和 義	（昭和52年卒）	留任
常任幹事	真義	（昭和47年卒）	留任
常任幹事	野之助 孝	（昭和48年卒）	留任
常任幹事	山篤 美	（昭和49年卒）	留任
常任幹事	地研 也	（昭和53年卒）	留任
常任幹事	久山 衛	（昭和61年卒）	留任
常任幹事	地舘 勝	（平成元年卒）	留任
常任幹事	大森 健一	（平成2年卒）	留任
常任幹事	城守 まゆみ	（平成3年卒）	留任
常任幹事	菊地 宏明	（平成5年卒）	留任
常任幹事	吉田 伸	（平成12年卒）	留任
常任幹事	佐藤 宣昌		新任（副校長）

令和５年度 白聖同窓会一般会計予算

収入

（単位：円）

科　目	予算額	前年度予算額	比　較	摘　要
繰越金	1,096,918	7,554,625	-6,457,707	前年度一般会計より
会　費	8,400,000	9,000,000	-600,000	令和５年度分 4200件
入会金	556,000	556,000	0	3学年分（278名×200円×10ヶ月）
予納金	1,472,000	1,464,800	7,200	1学年分（287名×240円×10ヶ月） 2学年分（280名×240円×10ヶ月） 3学年分（278名×40円×10ヶ月）
繰入金	0	0	0	財産積立金から
雑収入	3,082	4,575	-1,493	預金利息、宛名シール代
計	11,528,000	18,580,000	-7,052,000	

支出

（単位：円）

科　目	予算額	前年度予算額	比　較	摘　要
事務費	400,000	380,000	20,000	事務用品(封筒・トナー等含)、郵送代払込手数料、建物共済加入負担金、記念館施設使用光熱水費等
慶弔費	230,000	230,000	0	各白聖会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅　費	250,000	250,000	0	各白聖会派遣旅費
会議費	300,000	300,000	0	卒業年次代表者会議、役員会・常任幹事会、編集委員会
事業費	900,000	700,000	200,000	ウェブサイト管理運用費、應援旗祭、キャリア教育人材バンク整備費、事務局環境整備費
総会関係費	500,000	700,000	-200,000	総会資料作成費等
キャリアアップ講演会費	100,000	150,000	-50,000	講師謝礼、旅費
名簿作成費	150,000	1,500,000	-1,350,000	卒業生データ入力費等
会報刊行費	3,100,000	3,100,000	0	白聖通信43号印刷費、郵送費
事務局員費	1,500,000	1,800,000	-300,000	事務局員給料、健康診断費用
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白聖の翼補助（白聖振興会会計へ）
財産積立繰入金	200,000	1,000,000	-800,000	
周年事業特別会計繰入金	100,000	3,674,009	-3,574,009	周年事業特別会計へ
部活動等奨励費	1,200,000	1,200,000	0	上位大会出場部、應援委員会
夜間照明設備費	250,000	250,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	800,000	935,500	-135,500	
予備費	48,000	910,491	-862,491	
計	11,528,000	18,580,000	-7,052,000	

令和４年度 白聖同窓会一般会計決算

収入

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	比　較	摘　要
繰越金	7,554,625	7,554,625	0	前年度より
会　費	9,000,000	7,467,000	1,533,000	令和4年度入金 3733件+ 1,000円
入会金	556,000	553,000	3,000	3学年分
予納金	1,464,800	1,458,440	6,360	1・2・3学年分
繰入金	0	0	0	
雑収入	4,575	117,857	-113,282	預金利息、宛名シール代、寄付金、名簿売上金
計	18,580,000	17,150,922	1,429,078	

支出

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	比　較	摘　要
事務費	380,000	414,268	-34,268	電話代(インターネット通信費含)136,128円、事務用品146,090円、払込手数料3,190円、郵送代69,801円、残高確認書3,520円、職員録4,620円、白聖記念会館施設使用光熱水量代3,166円、建物共済加入負担金13円、プリンター修理代47,740円
慶弔費	230,000	165,014	64,986	弔電代、生花代、支部総会等祝金
旅　費	250,000	278,240	-28,240	支部総会等派遣旅費
会議費	300,000	204,042	95,958	役員会、常任幹事会、編集委員会
事業費	700,000	789,800	-89,800	総会告知新聞広告掲載代、新入生入学記念品代、ウェブサイト管理運用費
総会関係費	700,000	830,520	-130,520	総会資料作成代、主管年次補助金、講演者謝礼、弁当代
キャリアアップ講演会費	150,000	0	150,000	
名簿作成費	1,500,000	1,633,240	-133,240	名簿作成代（含データ移行作業分）卒業生データ入力費
会報刊行費	3,100,000	3,071,500	28,500	42号印刷費、郵送代
事務局員費	1,800,000	1,637,183	162,817	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	
財産積立繰入金	1,000,000	0	1,000,000	
140周年事業費負担金	3,674,009	3,674,009	0	周年事業特別会計へ
部活動等奨励費	1,200,000	984,000	216,000	
夜間照明設備費	250,000	250,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	935,500	622,188	313,312	振込手数料、通知票受取代
予備費	910,491	0	910,491	
次年度繰越金	0	1,096,918	-1,096,918	
計	18,580,000	17,150,922	1,429,078	

同窓会だより

48会の50年

昭和48年卒　年次代表　藤村三良

我々昭和48年3月卒業の同期会は「白聖四八会（ＨＫＡ48）」（48会）と言い、転校した者も含めた構成としている。卒後3年目から毎年正月2日に新年会を行ってきたが、第43回の翌年コロナ禍に突入、ミニＷｅｂ会にて連続開催という形だけは繋いだ。この年次会とは別に、卒業20、30、40周年には記念事業を開催し、元担任の授業再現や同級生達の講演会、記念誌やＤＶＤ製作、母校へ植樹（玄関前のケヤキと桜）、現役職員への支援などのほか奥尻島、大槌町など被災自治体への寄付も行った。インターハイ出場部へのカンパ、甲子園に出た野球部に数日間で１２０名以上の寄付を集め、寄付人数最多で表彰されたこと、白聖同窓会の幹事では知恵を尽くし、例年１００名以下の参加者を２６０名以上に増やし益金を出したこと、在京白聖会の幹事年には分家の「在京48会」の手伝いのため、どぶろく特区になった遠野のどぶろくを新幹線で盛岡から会場へ数人で持参したことなどを思い出す。



日時：令和5年10月10日　会場：オガールプラザ情報交流館

関西で放送作家をしていた故日沢伸哉君の、全国に母校を紹介したいとの強い思いに説得され、彼が制作を担当していた当時の怪物番組「探偵ナイトスクープ」に数人で出演したこともあった。もう故人になってしまったので許されると思うが、実は番組スタッフの彼が主導したので当然採用となり、彼の台本「憧れの転校した下級生を訪ねて」に従って、転校していった1学年下の某女子を探す旅に出たのである。全国的に大雪の2月、盛岡からスタートし、花巻空港→名古屋→鹿児島→東京。桜島をバックに旗を振り校歌を歌うという彼の熱望のシーンも放送された。当時岩手では放送もなく見たこともない番組なので、偏に彼への義理のために出演したのだが、知っていればもっと面白くやれたのに、と今は残念である。故日沢君はＹ興業前会長のＯ氏らと若い頃から活動し、関西の演芸・エンタメ業界では有名な人間であった。

本年の卒業50周年事業は2部構成となっており、Ｐａｒｔ1は同級生の元農林水産省次官、現農林中金総合研究所理事長の皆川芳嗣君による講演と、前、現紫波町長を交えた鼎談を紫波町オガールで10月に開催した。Ｐａｒｔ2は明年正月2日に盛岡市内で行う予定である。

思えばいろいろな活動を行ってきたが、いつも二つ返事で手伝ってくれる20名ほどの実行委員の協力の賜物である。今後も彼らがいる限り、48会の同級生の交流は続いていくものと思う。

卒後30年を迎えて

平成5年卒　年次代表　関　慶久

卒後30年の御連絡が同窓会事務局からあったところ、率直な気持ちは、時の流れの速さに対する驚きです。学生時代には想像さえしなかった50歳を迎えることに改めて気付かされるとともに、この間に鬼籍に入られた皆様には心から御冥福をお祈りいたします。

現在の母校の様子は、白聖通信をはじめとする各種の機関誌の御提供や報道等により垣間見ることができ、大変ありがたいと感じています。私は岩手県内に在住しているせいか、在校生の活躍を目にしやすい環境にあると思っており、春には、創立記念日に行われる運動会を前に盛岡市中心部を練り歩く在校生の姿を見かけたり、夏には硬式野球部が県大会で2年連続のベスト4に進出するなど文武両道を体現するような熱戦を見せてくれたりと、自らの学生時代に思いをはせる出来事に触れる機会が多く、大変うれしい限りです。



お世話になった諸先輩方とともに

振り返ると、私達が盛岡一高に在籍した3年間も、数多くの卒業生の皆様と同様に、国内外で様々な出来事がありました。国際情勢では、冷戦崩壊を招いた東西ドイツの統一やソ連邦の消滅のほか、湾岸戦争の勃発が記憶に残り、国内では雲仙普賢岳の大規模な火砕流の発生もありました。大横綱である千代の富士が引退する一方で、後にメジャーリーガーとなる松井秀喜選手が夏の甲子園大会を賑わせるなど、スポーツ界でも印象的な出来事がありました。今も放映中のサザエさんの生みの親であり国民的漫画家の長谷川町子さんが御逝去されたのもこの頃です。

そのような中、盛岡一高で学生時代を過ごした私達の学年ですが、平成29年度白聖同窓会の担当幹事を務めさせていただきました。小田島勉さんや清水畑貴彦さんらが中心となり、県内はもとより県外からも多くの同期生が集い、総会や懇親会の運営をお手伝いさせていただきました。写真のように、学生時代の恩師をはじめとする諸先輩方には、懇談や記念撮影に応じていただくなど、大変貴重な機会を得ることができました。いつかまた、このようにお会いする機会に恵まれることを祈念しています。

最後になりますが、平成5年卒業生一同、多感な青春時代を見守り、彩ってくれた盛岡一高に改めて感謝を申し上げるとともに、母校の益々の発展と同窓の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げ、結びといたします。

高校時代に熱中したことが、今も生きています！

高校時代を振り返ると、学業や部活動を通し、自分が得意なこと、夢中になれるものに出会い、情熱の炎を燃やした人も多いのではないでしょうか。一高生時代に努力していたこと、さまざまな人との出会いやつながりを糧に、現在もなお夢に向かって突き進む２人の卒業生を紹介します。

大学で学んだ化学の知見から独自の日本酒ペアリングを提案

日本酒利酒師（ソムリエ）
千葉麻里絵さん（平成15年卒）


©Masaki Komatsu

日本酒利酒師(ソムリエ)として口内調味(ペアリング)や、酒蔵とのコラボレーションで新しい日本酒のスタイルやカルチャーを発信している千葉麻里絵さんに話を聞きました。

高校入学後に「目標が無くなってしまったような状況があった」と振り返る千葉さんですが、受験を意識し始めた２年生くらいから、有機化学が好きだったこともあり、化学の点数が上がり始め、大学は工学部物質化学工学科に入りました。大学時代は、学業の傍ら飲食店でアルバイトをし、接客の素晴らしさや達成感を感じていました。

しかし、大学卒業後は飲食業と無関係の企業に就職。３年勤めた後に、飲食の世界へ。最初は日本酒の味の違いも分かりませんでしたが、蔵元を直接訪ね、その真摯な仕事ぶりに感銘を受けたそうです。

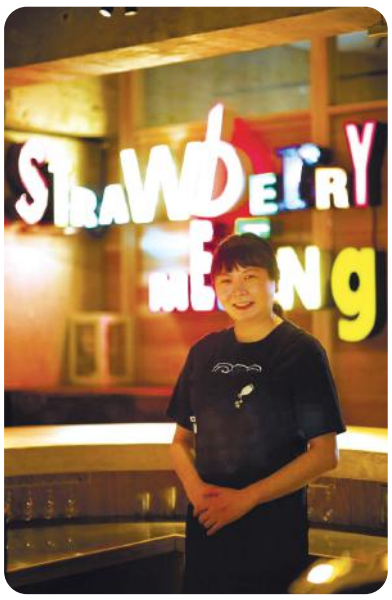
「こういうお酒が飲みたいと言った時､何となく出されて､まあこれかな？と飲む。そんな曖昧な部分が以前の日本酒の世界にはありました。感覚的な部分も大切だけど、化学的な根拠の部分も大切にしたいと思い、独学に近い形で勉強し始めました。その中で『味わい』は２割が味覚で、８割が嗅覚から感じ取っていることを知りました」

日本酒の吟醸香と言われる酵母が生み出す独特の香りの正体は様々な化学成分で、日本酒の香り成分は100種類を超えると言われています。清酒官能評価セミナーという清酒の知識や品質の鑑定を行う専門家育成のための資格取得時に、酒造りの過程で出る香気成分について学びました。

「香気成分は結局化学式なので、聞いていると話がすごく分かりやすくて、高校や大学で学んだ専門的な知識がこんなところで役に立つんだと思いました。有機化学を学んでいた自分以外の人達には無い武器だと思ったし、その武器の使い所が合致した感覚でした」

蔵元が全身全霊をかけて造った日本酒の特徴、素晴らしさを化学的知見に基づき伝えられる自分の強みに気づいた千葉さん。多様化する日本酒の『味わい』を、一人ひとりに合わせ、様々な形で日本だけでなく世界に発信しています。

（平成15年卒　小笠原聡）


©Masaki Komatsu

profile

千葉 麻里絵 さん

平成15年卒。奥州市出身、東京都港区西麻布EUREKA! 店主。日本酒ソムリエ。第14代酒サムライ。大学で学んだ化学の知見から独自の日本酒ペアリングで新たな日本酒のスタイルを提案。著書『日本酒に恋して』、映画『カンパイ！日本酒に恋した女たち』など多彩なメディアで日本酒の魅力を発信している。

劇団四季で私を支えてくれた一高音楽部での出会いや活動

ミュージカル、ヴォーカル講師
齋藤さやかさん（平成15年卒）



「自分が得意な歌を活かした道を歩んでいきたい。でもプロへの道は厳しそう。その現実が見えてきたとき、歌とダンスを合わせれば100点を取れる！自分自身の新たな強みになると思ったんです」

そう語るのは白聖同窓生の齋藤さやかさん。劇団四季の舞台で活躍していたこともある齋藤さんは、進むべき道が高校時代にはっきりと見えたそうです。

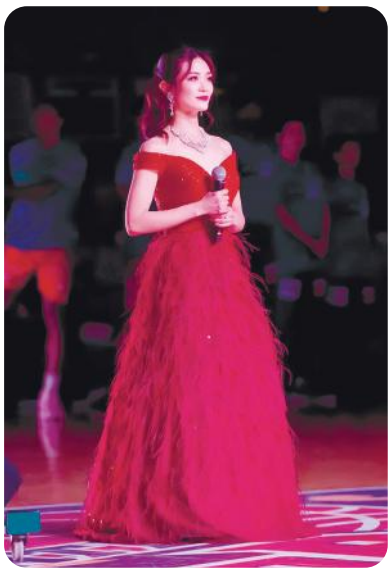
ミュージカルの世界に強い憧れを抱いていた齋藤さんは、本校在学中に宝塚音楽学校を受験。定員40名という狭き門を目指し、金・土・日曜日は専門的なレッスンを受けるために東京や大阪へ。「移動時間は勉強に充て、自分のやりたいことと両立できるようにしていました。宝塚に入る夢は叶いませんでしたが、いつも応援してくれた担任の菅野誠二先生（２年時）、南舘秀昭先生（３年時）、進路のアドバイスをくれた音楽部顧問の横山泉先生には本当に感謝しています」と話します。

「ミュージカルの世界に進みたい」という思いを強くするきっかけが訪れたのは高校３年生。所属していた音楽部の定期演奏会の「オペラ座の怪人」でクリスティーヌ役を演じた時でした。部内に音楽系での進学を志す仲間がいて、共にDVDを見るなどして表現を研究。「やっぱり芸術っていいよね」と語り合いながら、演出の相談をしたり歌の練習に励んだことは青春そのものでした。「一高でこんなに音楽を熱く語れる仲間と出会えるなんて思っていませんでした。一高音楽部での出会いや活動が、今の自分を支えていると思います」と振り返ります。

今は宮城県内の音楽教室でミュージカルの先生をしています。「私がミュージカルを志したとき、東北で『歌』『ダンス』それぞれを学べる場所はありましたが、本格的に『ミュージカル』を学べる環境はありませんでした。私と同じような夢を抱く子どもたちが、上京してレッスンを受ける際に困らないようにしてあげたい。夢を叶えるお手伝いの気持ちで指導しています」

自身が本場で培った演者としての知識、技術、心構えを今日も目の前の子どもたちに伝えています。教え子が舞台で輝く日を夢見て。

（平成15年卒　内田知代）



profile

齋藤 さやか さん

平成15年卒。盛岡市出身、宮城県大崎市在住。盛岡一高卒業後、国立音楽大学へ進学。大学４年時に劇団四季のオーディション（声楽部門）を受験し、2007年入団。約６年間ミュージカルの舞台に立つ。退団後、地域イベントでの歌唱披露、PTA活動での歌の講師、2022年には岩手ビッグブルズホームゲームでの国歌斉唱を務めるなど、子育てをしながら精力的に活動している。

編集後記

・「在校生の興味を唆るには」との考えから、今の頑張りが将来どう繋がり拡がるのかを記事にしたかった。今回は代表して我々の学年２名のお話だが、幾万の卒業生全てに素敵なストーリーがあると思う。連載なるか!?　（平成15年卒　川原田圭）

・高校時代に熱中していたことが職業に繋がる。職業にしていることが更に大きな夢へと広がる。人生一度きり。同窓生の私たちもまだまだ熱中しよう！　（平成15年卒　加賀典子）

総会記念講演

受験勉強の30年先にあるもの

2023年10月14日　ホテルメトロポリタン盛岡本館



講師
国立がん研究センター中央病院緩和医療科医長
石木（いしき） 寛人（ひろと） 氏（平成9年卒）

略　歴

1997年	盛岡一高卒業
2003年	東京大学医学部医学科卒業
	東京大学医学部付属病院耳鼻咽喉科研修医
2005年	静岡県立静岡がんセンター頭頸科ジュニアレジデント
2008年	国立がん研究センター中央病院頭頸科がん専門修練医
2011年	国立がん研究センター東病院頭頸部内科医員
	同病院先端医療科医員
2014年	東京大学医科学研究所付属病院緩和医療科特任助教
2017年	国立がん研究センター中央病院緩和医療科医員
2020年	同病院緩和医療科医長

緩和ケアを通じて患者さんと向き合う日々

私は平成9年卒業で盛岡市出身、岩手大附属小、岩手大付属中、盛岡一高という、よくあるキャリアですが（笑）、東大の理科三類に合格して、医者になって今21年です。

今は国立がん研究センターの緩和医療科で医師をしています。どこの病院にもある診療科ではありません。主にがんの患者さんのつらさに向きあう診療を担当しています。

日本では緩和ケアの対象は、ほとんどがんの方です。がん医療と緩和ケアが紐づいて認識されていますが、緩和ケアが対象とする疾患は生命を脅かす病であり、これはがんだけでなく、心疾患や脳血管障害など様々な重い病がふくまれます。このような病気の人や家族を対象として痛み以外にもさまざまな苦痛を予防し、和らげ、QOLを向上させ、患者さんを幸せにするために取り組む診療科です。

がんの患者さんは痛みの他にもだるさや息苦しさなど体の症状、気分の落ち込みや焦燥感、不安のような気持ちのつらさを経験します。他にも治療のために仕事を辞めた、治療費が払えない、抗がん剤で髪が抜けたため外出できない、など社会的な苦痛、「生きていても仕方ない」というような根源的な悩みを抱える人もいらっしゃいます。お金が足りないために受診を控え、治る病気が治らなくなることもある。このように医療の現場ではあまり目を向けてこなかったこれらの問題に、きちんと目を向けて適切な支援を行って「困った」を解決しようと考える人が増えています。

今私は、緩和ケアの臨床研究を行い、治療開発に取り組んでいます。研究の結果を世の中に広めるためには結果を出すだけでなく、それを制度として普及、実装していく必要があり、政策提言にも取り組み始めています。

このように様々な診療、研究はいずれも1人でできるわけではなく、院内で30人ぐらいの緩和ケアチームを組んでいます。緩和医療科、精神腫瘍科、歯科など多診療科の医師に加え、看護師や薬剤師、心理士、栄養士、鍼灸師、ソーシャルワーカー、子ども支援を行うホスピタルプレイスタッフ、外見の変化に対応するアピアランスケアスタッフという職種の人もいて、患者さんの「困った」を見つけ出し、それに対してどう取り組むか、日々皆で話し合っています。

今日は高校時代の私の話と、それが今にどのようにつながっていたかをお話しします。高校入学時の成績は50番ぐらいで、高校に入った途端に英語と数学がめちゃくちゃ難しくなって愕然としました。課題もテストもすごく多くて、成績がいい人たちは軽々こなしているように見えるけれど、どうしたら解決できるか分かりませんでした。そんな私に高校1年生の秋に人生を変えた二つの出会いと一つの転機がありました。これが今の自分を形成したと言っても過言ではないです。二つの出会いはライバルと勉強法、そして一つの転機は「白堊の翼」海外派遣です。

ライバルは佐藤英貴君。中学からの同級生で一緒に東大医学部に進学した仲間です。彼は高校に入った時には高校の数学が終わっていて、高校3年の春に数学オリンピックに選抜され、東大模試でA判定を連発して合格した、本当にすごい人でした。高1は同じクラスで、休み時間のたびになぜか僕の机に来て「お前は東大に行くんだぞ」と吹き込み去っていく。だんだん「洗脳」されて「東大受けてみようかな」となったのは彼の影響が大きいです。

海外派遣は高1の11月に派遣が決定しました。3月に1ヶ月ヨーロッパに滞在することになりました。初めての海外は嬉しかったんですが、

高校の受験勉強を通じて身に付けたものが、今の仕事の基礎になる

一方で1ヶ月学校に穴を開けて勉強は大丈夫か、3月に向けて勉強を進めておかねばならないのではと思っていました。

そんなときに「キミにもできるスーパーエリートの受験術」（有賀ゆう著、絶版）という本が発刊されます。勉強法が分からず困っているときに書店で手に取って「よし、これだ」と買い、何度も読みました。勉強法の解説だけでなく、生活法や自分をポジティブシンキングに導くマインドコントロールのようなことまで書いてあり、その通りやってみました。

高1の秋に先取り学習を始めました。本に書いてあった4時間睡眠が出来たら勉強時間が増えるなあとチャレンジしましたが、自分にはできなかった。自分の睡眠時間は7時間だと分かり、それに合わせて生活習慣を見直し、勉強をするようになりました。

そして3月に不在になることを見越して、教科書の単元を日割りにして、高2の夏休みまでに全範囲が終わるように計画を立てました。半年か1年以内で、高校の範囲を全部勉強するというと無茶な感じがしますが、割ってみるとそんなにたいしたことはなく、淡々と黙々とやりました。自分ができると思う量でスケジュールを立てて、予定通りできたら計画を前倒しし、どんどん進めていきました。今の仕事の計画の立て方の基礎はここで身に付いた感があります。

高2の夏までに数学がほぼ終わり、夏の東大模試では理科二類でC判定が来ました。一番下の判定でなかったので、やる気が出ました。秋の模試まで3ヶ月頑張って勉強したらA判定が来て、もう1年やったら本当に理科三類に行けるのではと思い、そこから1年死ぬほど勉強しました。

高3はやる問題集がなくなり、数学と化学は大学の教養の教科書を取り寄せて勉強し、生物は教科書の索引の単語を説明する練習をしました。例えば「DNA」のような単語を30字、100字、300字、のように様々な分量で記述する負荷を変えてやりました。英語も記述を重要視し、読解問題などで出会った英文を日本語で要約する練習を毎日やりました。

高校の受験勉強を通じて身に付けたものは▽自分の能力、ここまでなら頑張れるという限界値の把握▽計画を持って物事に取り組み、達成すること▽インプットとアウトプットの反復▽前向きに物事を考えること―で、これらは今の仕事の基礎になっています。

「学校の勉強は意味がない」と言

「学校の勉強」の意味について考える

1.センスだけでやっていける世界はない
効率×時間　の部分の勝負

2.本当に自分がやりたいことの探求
今目の前のことに全力で取り組む

3.抗えない運命の波
一期一会の精神

われますが、学校の勉強の意味を考えながら、今の仕事に繋がる仕事、半生を振り返りたいと思います。▽センスだけでやっていける世界はない▽本当に自分がやりたいことの探求▽抗えない運命の波ー、この三つのお話をします。

まずは「センスだけでやっていける世界はない」。東大理三というと「宇宙人」というイメージがあり、入学前は私もそう思っていました。同級生が１００人ぐらいいましたが、話を聞いても宇宙人はそんなにいない。確かにすごい人もいますが、９割以上の人は普通の感じです。実力は「能力と効率と時間の積」だと思います。見えている実力は宇宙人かもしれないが、能力が宇宙人という人はそんなにいない。その実力に反映されるものは効率と時間の積。この積を人は努力といいます。努力は才能ではなくて習慣化。いかに効率よく時間をかけてやるか、それを自分の生活の中に組み込むか。いわゆる「宇宙人」と呼ばれている人たちも、そういうことをやっています。

次に「自分がやりたいことの探求」。私は小学校の卒業文集に「医者になって、たくさんの人の病気を治したい」と書きました。中学生の時も医者になりたい、高校生の時は医者か裁判官になりたいと言っていました。小学生の時は親の職業しか知らないので、他の仕事を想像できないから医者になりたいと言っていたのだと思います。中学生の時も同様で、高校時代は反抗期に入って「親の敷いたレールに乗るもんか」と当時読んでいた本に影響されて司法の道に進みたいと考えました。

実際医学部を卒業して医師になることができました。卒業後に頭頸部外科の道に進むことにしました。進路を決めたのは手術が上手いのが名医というイメージがあっただけで、あまり深くは考えていませんでした。しかし研修医の生活は朝７時の病棟採血から始まり、終わるのは夜の11時頃。月曜の朝から働き始めて、土曜には週の労働時間が１００時間を超えました。仕事は台車を押して薬剤部に薬を取りに行くとか、患者さんにご飯を食べさせるとかばかり。月給は10万円。学生時はバイトで10万円よりはるかに収入があったので医者になったら貧しくなってしまった。貯金を切り崩し、親から仕送りをもらって生活をする。医者になったことを心の底から後悔しました(笑)。

がん診療をやりたかったので、がん患者さんを多く受け持ちました。初めての看取りは病棟に出て最初の月。担当する患者さんの、亡くなる前の「苦しい」に対して何もできなかった。患者さんとのコミュニケーションも上手に取れませんでした。私のメンターは、何を言っているか分からない、うまくしゃべれない患者さんの話をしっかり向き合って聞き、一言、「それはつらかったですね」と返してあげるだけでも、患者さんが涙を流して泣くんです。「心が通じ合うってこういうことか。言葉の力は重い」と思いました。このような言葉を発することができる医師になりたい、がんを上手に診られるようになりたいと、がん専門病院に修行に行き、トレーニングを受けました。



努力は才能ではなくて習慣化。いかに効率よく時間をかけてやるか、それを自分の生活の中に組み込むか。

実力＝ 能力×効率×時間

能力はどんぐりの背比べ
実力の違いは実質後ろ2つの違い

「努力」＝効率×時間

努力は才能ではなく習慣化
努力の根源は成功体験と悔しさ

その中で、海外で出た最新の治療薬が日本には入って来ない、グローバルスタンダードの治療が国内でできないという現実を知り、きちんと標準治療ができる医者になりたいと思うようになりました。そこで外科ではなく、腫瘍内科に転じて新規治療開発の道に進みました。抗がん剤と放射線を使い、切らない治療でがんを治す、そして新薬の治験や、開発に取り組む道に進みました。その後またキャリアチェンジして今の仕事に就きました。

小学生の時に医者になりたいと言っていたので夢は「叶った」のですが、やりたいことを知っていてやりたいと言っていたわけではなかった。今の仕事はその時に想像していたものとは全く違っていました。本当にやりたかったことは、後から気が付くものだと思います。今では医者になって良かったです。それは自分が頑張ったら頑張っただけそれが人のハッピーにつながるということを直接感じられる仕事だからです。

とりあえず全力でやってみて、そこから開ける世界があるということが、この仕事の初期のキャリアから教訓として身に付いたことです。

抗えない運命の波も人生の中にあります。私の父は２００７年頃に、岩手県立高田病院に院長として赴任しました。私も縁があって２０１０年にその病院の手伝いで週１回高齢者の嚥下障害などを診る外来をやっていました。

２０１１年３月11日に東日本大震災が発生しました。実家は盛岡にあったのですが、高田病院に赴任していたので、両親は陸前高田におり被災しました。私は当時千葉に住んでいましたがニュースでは「陸前高田は壊滅状態です」以上の情報が入ってこない。母が行方不明になり、父にも全然連絡がつきませんでした。現地に行こうにも、東京からは鉄道でも高速道路でも入れない状況でした。３月18日に高田に入り、父とようやく繋がることができました。自分が働いていた病院の中はぐっちゃぐちゃとなり、両親が住んでいた家はほとんど残っていなかった。現地では被災した病院スタッフの支援、支援といっても盛岡まで行って食料調達などをしていました。そして毎日遺体安置所に通いました。震災後の３ヶ月で千葉と被災地を７往復しました。

大震災を経験して死生観が変わりました。今日と同じ日が明日来ると思ったらそれは大きな間違いだと。そして追い込まれた時の人の優しさと冷たさの両方を感じました。大勢の方に助けてもらい、同級生にもすごく助けてもらいました。一方で人の冷たさを感じる出来事も経験しました。

震災から12年経ちますが、その後直接故郷に貢献できていないことに関しては、未だに忸怩たる思いも抱えています。

三つのお話を通じてお伝えしたいのは、「努力は効率と時間の積である」ということ。そして「本当に自分がやりたいことを分かっている人は多くなく、目の前のことに全力で取り組むことで、世の中、運命が切り開ける」。それでも人生が翻弄されることもあるので「一期一会の精神は大事」ということです。

母校は実家のようなもの

最後に「受験勉強は役に立たない」に対するアンチテーゼとして、高校での学びがどう役に立ったかをお話しします。私の回答は「どの教科も役に立つ」です。数学は思考の抽象化の学問です。微分積分は確かに使わないかもしれないけれど、例えば問題解決のための抜けなくもれない場合分けはロジックモデルを考えるときに数学の考え方が基盤になる。英語はグローバルに勝負するためには必須。理科は私のようにサイエンス、メディカルサイエンスの領域で勝負するなら必須です。社会を勉強しておけば、国内や海外に行くときに、外国の人と話し合うときに、その文化的、歴史的な背景が分かって、深いコミュニケーションができると思います。実は高校時代一番役に立たないと思っていたのは国語だったんですが、今一番役に立っているのは国語です。方向性が全然違う多くの教科を勉強することからは、マルチタスクの基礎も身に付けました。そして受験勉強の中で何をやって何を捨てるか。高校生の時は独学重視で授業を捨てていました。授業はほとんど出てなかったんですけど(笑)、この取捨選択も受験勉強を通じて身に付けたものです。今もたくさんの仕事を、質を高めて一生懸命やっていますが、高校での受験勉強がその萌芽として役に立っています。

「母校は、実家のようなもの」と思います。高校２年、３年の時は反抗期で授業を聞かず、授業に出ず、不真面目な生徒でしたが、そんな私でも今日こういう場でお話しする機会をいただいた。やってくると、当時の先生方、当時の同級生と、長年会ってなくても、また笑って話し合える。本当にいいもんだな、温かいなと思います。

愛すべき街「盛岡」

タイトル　佐々木 豪（平成元年卒）



多くの人に愛され続けている伝統の味を守りながら、さらに愛されるものを生み出すべく、挑戦をし続けている白聖同窓生の兄弟がいます。高校卒業後同じ大学に進み、それぞれ一度別の企業に就職したのち、兄弟で家業である盛岡市の「メンマ屋」を継承。 互いに信頼し、尊重し合っている二人に話を聞きました。



兄：南郷（なんごう） 国豊（くにとよ）
平成18年卒。2017年、“メンマ専門店”株式会社大門に入社。2019年、同社代表取締役社長に就任。

弟：南郷（なんごう） 竜英（りょうえい）
平成19年卒。2013年、兄より一足早く同社入社。2019年、代表取締役専務就任。

メンマ屋大門ホームページ

◆倒産からの再起

株式会社大門は、その前身「株式会社大門食品」時代から、60年以上にわたりメンマ作りをしてきました。日本で初めて味付けメンマを商品化したのが大門食品です。当時は盛岡に自社工場を構えメンマの小袋をスーパーに卸すのが販路の中心でした。

しかし、時代の流れで各スーパーが自社ブランドを売り出し、より安価な商品が求められるようになると、業績は低迷、ついに会社を畳まざるを得ない状況になりました。その当時の社長は二人の父である成民さん（昭和49年卒）が務めており、二人は大学生でした。

倒産に至る前も後も、両親は相当大変な状況だったはずですが、家庭に仕事のことは持ち込まず、７人の子どもたちの日常を守ってくれていたことが印象的だった、と国豊さんは言います。

幸いにも、商品を信頼してくれていた取引先やメンマの製造を引き継いでくれた青森の工場、親戚の協力があり、「株式会社大門」として、メンマ作りの事業を継続でき、今の会社があります。

◆兄弟で家業を継ぐ

国豊さんは長男ということもあり、幼いころから「家業を継ぐ」ことは意識していました。

一方、竜英さんは大学時代、まさに会社が再起に向かっているころに、父から「将来、国豊と一緒に継いでほしい」と言われ、初めて家業を継ぐことを意識しました。

大門の強みは、仕入先の中国で通訳を介さずに中国語で直接やりとりをし、経営陣だけでなく、実務に当たる従業員ともコミュニケーションを取り、気になったことなども具体的に伝えられることです。これを継承・実現するため、二人とも約半年間祖父の祖国である台湾で中国語を学び、その後１～３カ月間、メンマ原料を仕入れている中国の工場に住み込みで働きました。

そういった経験も経て、2019年に二人で代表取締役となり、両親の代から経営のバトンを受け取りました。

◆発展と維持

会社員から経営者という立場になりましたが、資金繰りなどのノウハウが全くなかったため、初年度は苦労しました。勉強し、中期経営計画をしっかり作りこむことに力を入れ、２年目からは軌道に乗り始めました。

全く性格が違う二人。国豊さんは数字に強く、経営計画やプレゼン資料作りに長けています。竜英さんは実践で培ったメンマの知識を生かし、工場とお客様とをつなぐ役割を果たします。国豊さんは「発展」、竜英さんは「維持」のためにと仕事の役割分担は明確です。

足りないものを補い合っている状態で「二人じゃないと駄目」と二人は口をそろえます。

◆品質に妥協しない

自社のメンマは、かつてのスーパーの安売り路線には合いませんでしたが、今は「美味しい」を求める全国各地のラーメン屋が主な取引先です。

大門には、創業した祖父の時代から受け継がれるメンマのレシピが多くあります。各顧客のニーズにあったメンマの味付けを実現できるのも、この代々受け継がれてきた豊富なレシピのおかげです。メンマを取り扱う業者は全国にありますが、味付けメンマで競合する相手はいない、との自負があります。

もちろん、味付けだけではなく、原料の品質には最大限のこだわりがあります。現地中国に赴き、自らの目で原料を確認します。完全発酵した良質なメンマのみを選別し、漂白剤等を使用した原料は一切買い取りません。良質な原料の仕入れ（＝メンマ農家の質）を維持するため、それに見合った金額で買い取ることもこだわりのひとつです。

◆自分たちの使命

いまや「メンマ＝ラーメン」の世界は確立され、そのメンマを愛好する人は多くいますが、「『主役』としてのメンマの可能性を発見・発信していくことが自分たちの使命だ」と国豊さんは考えています。

そもそも台湾や中国では、メンマはラーメンのトッピングではなく、一つの食材として食卓に並びます。日本でも食材として定着させるべく、まず挑戦したのは「メンマごはんの素」の開発です。

メンマごはんは、実家の家庭の味ともいえる自社の味付けメンマを使った炊き込みご飯です。お祝いの日、人が集まる日、南郷家の食卓には必ずこのメンマごはんがありました。メンマ屋家族が大好きなメンマごはんを、皆さんの家庭でも味わってほしいという想いから、商品化を実現しました。

その次に目論んでいるのは、発酵食品であり食物繊維も豊富というメンマ本来の魅力を生かした「ギルトフリー」食品としての売り出しです。満を持して、ダイエット食品・健康食品としてのメンマを引っ提げ、投資家に出資してもらうビジネスYouTube「令和の虎チャンネル」のタイガーファンディング企画に志願者として名乗りを上げました。見事、希望の投資を受けられることとなり、メンマが食卓にある生活を当たり前にしたいという夢の実現に向け、その第一歩を踏み出したところです。

◆愛すべき街「盛岡」に根づくメンマ

今年8月、盛岡駅前にオープンした“ビアフロント ベアレン盛岡駅前店”のメニューに並ぶ、ベアレンオリジナル商品「ビールによく合うおつまみメンマ」は大門のメンマを使っています。提供されているラーメンにも大門のメンマがトッピングされています。地域に密着した地元企業とのタイアップも進めています。

常に新たなことを考えている国豊さんには「盛岡四大麺」の構想もあります。冷麺・じゃじゃ麺・わんこそばに、“メンマ”ラーメンを加えたいというものです。トッピングとしてメンマがついてくるのではなく、別皿でメンマ料理がついてくるようなイメージです。その実現には、市内のラーメン店の協力が不可欠ですが、新たなご当地ラーメンとして売り出すことができれば、地域活性化にも地元産業の発展にも寄与できるのではないかと、国豊さんは考えています。

◆白聖同窓生として

二人とも中学校でソフトテニスを始め、高校もソフトテニス部に所属。高校時代は部活中心の生活でした。雨でコートが使えない日は、部活の仲間たちとマッハランドにボウリングをしに行くのが恒例でした。今でも、お盆に行われるソフトテニス部OB会にはそろって参加しています。

二人は「一高生は勉強ができるできないは関係なく、面白みがある人が多い」「今でも同窓生と会うと会話のテンポが心地良く、発想豊かな話を聞くことができて刺激をもらえる」と言い、白聖同窓生としての誇りとつながりを大事にしています。



弟·竜英さん（左）と、兄·国豊さん（右）。
品質に妥協は一切なし

編集後記

家業を継ぐということは、簡単ではないと改めて感じました。先人が築いたノウハウや味を引き継ぐだけでなく、時代の流れに合わせて新しいものを作り上げていくこと、食卓に当たり前にあったメンマへの愛着や思い出が、ご兄弟にとって盛岡でメンマづくりを続ける原動力となっているのだと思います。

「ビールによく合うおつまみメンマ」美味しいので皆さんもぜひお試しください。

（平成14年卒　川端諒）

登山部

３年４組　白倉 歳也

北海道インターハイ2023に参加して

今年のインターハイは、北海道 大雪山系十勝岳連峰で行われました。岩手県大会で優勝した男子４人女子４人そして顧問２人の計10人での大会です。男女でチームは別ですが、チーム盛岡一高として、男女同時優勝を目標に一致団結して活動してきました。結果は、男子６位入賞。女子５位入賞でした。本校初の男女インターハイ入賞でした。男女とも昨年のインターハイの経験者が多かったため、昨年の反省を活かすことができ、昨年の大会から有意義な１年間を過ごすことが出来ました。

大会期間中は、練習してきたことをミスのないように行うのみでしたが、悪天候で本来の予定から変更となる場面もあったものの、臨機応変に対応できたため影響は大きくなかったです。天候こそは悪かったもののチームの仲間や全国の山友と一緒に高校３年間の思い出を作ることができました。

最後の部活で北海道の雄大な山を楽しく登れたことに感謝です。インターハイで優勝することを目標に活動をできる環境は特別なものでした。先生方や同窓会の皆さんの支えがあってこそできたことです。ありがとうございました。





囲碁将棋部（囲碁部門）

２年５組　大梶 華子

祝！全国７位入賞

７月24日～26日に東京の日本棋院で行われた全国高校囲碁選手権大会に出場しました。盛岡一高としては２年連続男女で全国大会に進むことができました。女子団体戦では大将・大梶華子、副将・細川莉緒、三将・高橋理子で出場し予選を突破、７位入賞を果たしました。格上の相手にも果敢に挑み、全国大会という大舞台で自分たちの実力を十分に発揮することができました。去年は、全国の厳しさ、一勝をつかみ取ることの大変さを痛感しました。それ以来、皆で努力を重ね、全国７位という成長した結果を残すことができ、とても嬉しかったです。

７月31日、８月１日には、鹿児島県指宿市で行われた全国高校総合文化祭囲碁部門に出場しました。飛行機と新幹線、ローカル鉄道を乗り継いだ約2000キロの長旅となりました。２日で６局の対局を行い、深く考え、相手の打つ手からたくさん学ぶことができました。

来年はもっと強くなってまた同じ舞台に立ち、３年間の部活動生活の集大成と言える結果を残せるよう、仲間と共に日々の活動に励んでいきます。





陸上競技部

３年２組　村守 壮太

「努力」を自問した３年

私は、８月に行われた全国高等学校総合体育大会陸上競技の男子砲丸投げに出場しました。結果は、14m77cmで16位でした。入賞を目標としていた自分としては非常に悔しい結果でありましたが、それと同時に３年間の部活動に対する充足感を感じることもできました。

この３年間の部活動を振り返ると、先生や仲間に恵まれたこともあり、とても楽しく活動することができた３年間でした。しかし、「自律」と「継続」の難しさを痛感する３年間でもありました。自分をよく知り管理すること、そして厳しい鍛錬を継続できる精神力、これらが満たされた時、努力が報われるのだと思います。これは陸上競技に限定されず、勉強など他のことにも共通しています。このような考えに至ったことが私の３年間での最大の成果であり、今後の人生における挑戦の際に生かされると確信しています。

そして、日頃より陸上競技部を応援、支援して下さっている後援会の皆様をはじめ、顧問の先生方、陸上競技部員に心より感謝いたします。



生物部

３年７組　今松 美緒

クマゼミに思いを馳せて

私たちは、７月29日から31日に鹿児島市で行われた全国高等学校総合文化祭自然科学部門に出場しました。今回で９年連続の出場となりました。岩手では見られないたくさんのクマゼミが鳴く鹿児島大学のキャンパスを会場に、ポスター（パネル）発表部門で「ナガコガネグモのカフェイン暴露による造網行動への影響」、研究発表部門で「蘚類群落におけるクマムシ類の環境指標としての有用性」という２つのテーマで発表しました。どちらの研究も長期間の実験や調査をもとにデータを分析し、何度も議論を重ねて作り上げたものでした。残念ながら入賞することはできませんでしたが、他校の生徒との質疑応答や審査員の先生方からいただいた評価をもとに、自分たちの研究を客観的に振り返ることができました。また、レベルの高い他校の研究発表を聞いたり、巡検研修で桜島の雄大な自然に触れたりすることができ、充実した３日間となりました。



囲碁将棋部（将棋部門）

２年３組　高橋 理子

反省と学びの総文祭

全国高校総合文化祭将棋部門が８月３日から鹿児島県指宿市で開催されました。今年は、男女個人、男女団体のすべてに出場することができました。指宿市は将棋にゆかりのある街で、プロ棋士の竜王戦が行われた白水館があります。今大会では個人戦決勝が白水館で行われることになっており、選手はみな熱気にあふれていました。

私の実力は全国レベルにはまだまだ程遠いため１勝することを目標に参加しました。結果は１勝３敗で目標は達成できましたが、勝てそうな試合で見落としをしてしまうなど、反省点も残りました。

大会の結果は男子団体・男子個人・女子個人が予選敗退、女子団体が決勝トーナメント１回戦敗退となりました。２日間にわたる試合や指導対局、プロ棋士による決勝戦解説などを通して多くのことを学び、充実した大会になりました。

各自の弱点を克服し、来年の全国大会で満足の行く結果を残せるように、日々練習を重ねていきたいと思います。



体操

１年４組　原田 瑛翔
１年５組　太細 諒人

初めてのインターハイ

私たちは今年の夏、札幌市の北海きたえーるで行われた全国高総体体操競技大会個人の部に出場しました。迎えた本番では周りの雰囲気に圧倒されて普段ならしないようなミスが目立ち、良い順位もとることができませんでした。悔しい結果に終わってしまった大会でしたが同時に全国の厳しさやレベルの高さ、そして、自分自身の練習方法の甘さなどの課題も多く見つけることができ、大会を通して大きく成長できたと実感しました。

そして、我々が一高生として大会に出場させていただくことが出来たのは、それを認めて下さいました学校長や学校関係者の皆様、ご多忙中のところ様々な手続きを行ってくださった藤井雅史先生、奨励金として我々をサポートしてくださった同窓会のご協力のお陰です。皆様、本当にありがとうございました。

今回の大会での悔しさをばねに、来年は満足できる結果を残せるよう、ひたむきに練習に取り組んでいきます。



放送委員会

３年６組　藤原 詩

鹿児島で岩手を伝える

放送委員会は、全国高総文祭放送部門の中で、オーディオメッセージ部門、アナウンス部門に参加してきました。どちらもテーマは「郷土の良いところを伝えること」で、オーディオメッセージではみそ・しょうゆ、アナウンスでは南部煎餅について伝えてきました。およそ2000㎞離れた、気候も全く異なる鹿児島という地に新たな味を届けることができたのではないかと思っています。また、全国の他の作品にも多く触れる機会になり、同様に日本各地の味や風景を感じ、それを伝えるスキルを学びました。

私は、鹿児島で岩手を伝えたことで、放送活動の軸である「伝える」事は、本当に意味がある事だと改めて思いました。この３年間の中でも、特に自分が伝えられたという達成感を得られた大会でした。しかし、その反面思い切って話すことができなかった悔しさも残りました。これからの放送委員会を担う１、２年生にも、ぜひ自分たちが満足できるような作品作りを続けてほしいと思います。同窓会の皆様には、ＮＨＫ杯全国大会とあわせて大変お世話になりました。ありがとうございました。



部活動の記録

令和4年12月～令和5年11月の大会結果について

■運動部

弓道部 R5

【第65回岩手県弓道選手権大会】
2部高校女子　田村紗和　第3位

【第75回岩手県高等学校総合体育大会弓道競技】
男子団体　ベスト8
小田音合、佐藤壱英、小松立空、白勢泰基、藤田翔士、藤原完多、菅原悠太
女子団体　第2位、射道優秀賞
畠山葵伊、齋藤央和、間瀬柑奈、岩船桃子、古川真愛、田村紗和

【第53回東北高等学校弓道選手権大会】
女子団体　ベスト8
畠山葵伊、間瀬柑奈、古川真愛、田村紗和、齋藤央和、岩船桃子、井上美姫

【第42回全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】
男子団体　ベスト8
藤原完多、小松立空、鈴木海尋、小野寺雄大

剣道部 R5

【第50回記念魁星旗争奪全国高校勝抜剣道大会第37回魁星旗争奪全国高校女子剣道大会】
男子　出場
女子　4回戦進出

【第55回岩手県高等学校選抜剣道大会】
男子団体　準優勝
女子団体　ベスト8

【第75回岩手県高等学校総合体育大会剣道競技】
男子団体　準優勝
女子団体　ベスト8
男子個人
小原真　ベスト16
遠藤海翔　4回戦進出
仁昌寺恒・藤澤秀伍・今村碧伊・藤岡遥仁・佐々木俊輔　2回戦進出
中嶋太一　出場
女子個人
長岩真子　4回戦進出
高橋瑠菜・阿部倖乃・浅沼侑希・橋場円　2回戦進出
髙橋寧々　出場

【第69回東北高等学校剣道選手権大会】
男子団体　出場

【第66回岩手県高等学校新人剣道大会】
男子団体　ベスト8
男子個人
仁昌寺恒　ベスト8
藤澤秀伍　3回戦進出
今村碧伊　2回戦進出
遠藤海翔　出場
女子個人
橋場円　ベスト8

硬式野球部 R5

【第105回全国高等学校野球選手権記念岩手大会】
1回戦　盛岡一　20―11　福岡工
2回戦　盛岡一　6―5　久慈東
3回戦　盛岡一　3―1　大船渡
準々決勝　盛岡一　2―1　盛岡四
準決勝　盛岡一　4―10　花巻東
ベスト4
長岩真子　ベスト16

【第76回秋季東北地区高等学校野球岩手県大会】
2回戦　盛岡一　4―5　水沢工

サッカー部 R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会サッカー競技】
2回戦　盛岡一　0―1　黒沢尻北

【第102回全国高等学校サッカー選手権岩手県大会】
1回戦　盛岡一　11―0　一関高専
2回戦　盛岡一　0―7　不来方

【第58回岩手県高等学校新人サッカー大会】
1回戦　盛岡一　0―7　遠野

柔道部 R4

【第4回文武両道杯全国高校柔道大会】
男子団体　出場
小野寺彩仁・中軽米胤・柿木結和・大柏一明・三上湧心
女子団体　優勝
中村悠月・佐藤心菜・菅野琴未・小川結楽

R5

【第45回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会】
女子個人
57kg級　菅野琴未　第3位
中村悠月　第3位

【第45回全国高等学校柔道選手権大会】
女子個人　57kg級　菅野琴未　出場

【第75回岩手県高等学校総合体育大会柔道競技】
男子団体　出場
女子団体　第3位
男子個人
60kg級　小野寺彩仁　ベスト8
73kg級　柿木結和　ベスト8
女子個人
57kg級　中村悠月　第2位
52kg級　佐藤心菜　第3位
57kg級　菅野琴未　第3位
52kg級　小川結楽　ベスト8
57kg級　築場美波　ベスト8
63kg級　吉見波穏　ベスト8

【第73回東北高等学校柔道大会】
女子個人
57kg級　中村悠月　出場
男子個人
60kg級　小野寺彩仁　第3位
女子団体　第3位

【第56回　岩手県高等学校1・2年体重別柔道選手権大会】
女子個人
57kg級　中村悠月　第1位
築場美波　第3位
2年男子個人
60kg級　小野寺彩仁　第3位

水泳部 R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会水泳競技大会】
男子
200m平泳ぎ　小笠原助維　第6位
100m平泳ぎ　田村悠尚　第7位
小笠原助維　第5位
田村悠尚　第8位
200mバタフライ　田村悠尚　第7位
100mバタフライ　柾本旭日　第6位
4×100mフリーリレー　第8位
小笠原助維・田村悠尚・金田真弥・柾本旭日
4×100mメドレーリレー　第7位
田村悠尚・小笠原助維・柾本旭日・金田真弥
女子
100m自由形　菊池成美　第9位
50m自由形　高橋陽久　第3位
200m背泳ぎ　高橋帆乃佳　第7位
200m個人メドレー　高橋陽久　第3位
4×100mフリーリレー　菊池成美　第7位
高橋帆乃佳・佐々木好葉・高橋陽久・菊池成美　第9位
4×100mメドレーリレー　第3位
高橋陽久・菊池成美・高橋帆乃佳・佐々木好葉

【第71回東北高等学校選手権水泳競技大会】
男子
200m平泳ぎ　小笠原助維　出場
田村悠尚　出場
100m平泳ぎ　小笠原助維　出場
田村悠尚　出場
200mバタフライ　柾本旭日　出場
4×100mフリーリレー　出場
金田真弥・栗谷川凛太・山﨑拓人・柾本旭日
女子
50m自由形　高橋陽久　出場
200m平泳ぎ　田村悠尚　第6位
200m個人メドレー　高橋陽久　出場
4×100mメドレーリレー　出場
高橋帆乃佳・佐々木好葉・菊池成美・高橋陽久
200m背泳ぎ　高橋帆乃佳　出場

【第61回岩手県高等学校新人水泳競技大会】
男子
200m平泳ぎ　田村悠尚　第6位
200mバタフライ　柾本旭日　第5位
100mバタフライ　柾本旭日　第4位
200m個人メドレー　高橋陽久　第3位
女子
100m自由形　高橋陽久　第3位
200m背泳ぎ　高橋帆乃佳　第6位
200m個人メドレー　高橋陽久　第9位

ソフトテニス部 R4

【第54回岩手県高等学校ソフトテニス大会】
個人戦
池田夕聖・野澤賢人ペア　出場

R5

【第33回岩手県ジュニア選抜ソフトテニス選手権大会兼ハイスクールジャパンカップ2023予選会】
ダブルス
男子　熊谷悠樹・村上叶多ペア
2回戦進出
小松祐一郎・野澤賢人ペア
出場
女子　和野絢・柳田幸乃ペア　出場

【第75回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
個人戦
男子
菅野成世・池田夕聖ペア
2回戦進出
和野絢・柳田幸乃ペア
3回戦進出
松本彩花・坂井瑞希ペア
出場
女子
2回戦進出
出場

【第68回岩手県高等学校新人大会ソフトテニス競技】
個人戦
男子
熊谷悠樹・畠山大輝ペア　出場
上野結雅・鹿野優太ペア
3回戦進出
団体戦
男子　2回戦進出
女子　2回戦進出

卓球部 R5

【第75回高等学校総合体育大会卓球競技】
団体戦
男子　2回戦進出
女子　2回戦進出
個人戦
男子　2回戦進出
女子　出場
個人戦
男子シングルス　草木瑛介　出場
女子ダブルス　福士莉菜・吉田みずき　出場

【令和5年度岩手県高等学校新人大会】
個人戦
男子シングルス
齋藤春希　出場
草木瑛介　出場
女子ダブルス
齋藤春希・草木瑛介　出場

テニス部

【第75回岩手県高等学校総合体育大会テニス競技】
男子団体　第3位
女子団体　第2位
男子個人　シングルス
田村春樹　ベスト8
男子個人　ダブルス
田村春樹・細井大地　ベスト8
女子個人　シングルス
及川恵歩　ベスト8
女子個人　ダブルス
及川恵歩・小野寺花愛　ベスト4

【第44回岩手県ジュニアテニス選手権大会】
16歳以下　女子シングルス
土樋燕　ベスト8
18歳以下　男子シングルス
田村春樹　第3位
18歳以下　女子シングルス
及川恵歩　第7位

【令和5年度　岩手県県民テニス大会少年の部】
男子シングルス
細井大地　第3位
女子シングルス
小野寺花愛　第1位
土樋燕　第3位

【2023夏季ジュニアテニストーナメント】
女子シングルス
小野寺花愛　第3位
男子ダブルス
細井大地　根本淳平　ベスト4
女子ダブルス
小野寺花愛　土樋燕　第1位

【第55回岩手県高等学校新人テニス大会】
女子団体　第3位
男子個人　ダブルス
細井大地　根本淳平　ベスト8
女子個人　シングルス
小野寺花愛　ベスト8
土樋燕　ベスト8
女子個人　ダブルス
小野寺花愛　土樋燕　第1位

【令和5年度　東北春季ジュニア岩手県選考会】
18歳以下男子シングルス
細井大地　第3位
18歳以下女子シングルス
小野寺花愛　第3位
土樋燕　第6位

登山部 R4

【第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会】
女子　川村鞠采　第79位
須藤はる美　第86位
女子学校別　第12位

【第3回スピードユース日本選手権千葉大会】
ユースA女子　川村鞠采　第2位

R5

【スポーツクライミングいわてカップ2023ボルダリング・リード大会（兼国体選手選考会）】
ボルダリング
女子
マスターの部　佐藤凛歩　第4位
ミドルの部　川村鞠采　第6位
ビギナーの部　田口小桜　第1位
男子
ビギナーの部　内澤昊太郎　第2位
リード
女子
オープンの部　佐藤凛歩　第3位
ビギナーの部　川村鞠采　第3位
男子
ビギナーの部　内澤昊太郎　第5位

【第11回リードユース日本選手権南砺大会】
佐藤凛歩　第44位

【第9回ボルダーユース日本選手権倉吉大会】
ユースA女子　佐藤凛歩　第32位

【スポーツクライミングジャパンツアー2023スピード第1戦】
スピード女子　川村鞠采　第10位

【第75回岩手県高等学校総合体育大会登山競技】
団体戦
男子　第1位　98・9点
白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志、松田悠清
女子　第1位　98・1点
吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴、須藤はる美

【第9回東北高等学校登山大会】
団体戦
男子　第1位
白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志、松田悠清
女子　第1位
吉田穂香、須藤はる美、岡野楓華、中舘玲来

【第16回岩手県スポーツクライミング競技国体選手選考会】
ボルダリング競技
少年男子
第4位　斉藤祐俊、照井仁知翔
少年女子
第4位　斉藤祐俊、照井仁知翔
リード競技
少年男子
第1位　川村鞠采、佐藤凛歩
少年女子
第2位　川村鞠采、佐藤凛歩

【第50回東北総合体育大会スポーツクライミング競技国体選手選考会】
ボルダリング競技
少年女子岩手チーム
第1位　佐藤凛歩
リード競技
少年女子岩手チーム
第4位　佐藤凛歩

【令和5年度全国高等学校総合体育大会登山大会　第67回全国高等学校登山大会】
男子団体　第6位
白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志、松田悠清
女子団体　第5位
吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴、須藤はる美

軟式野球部 R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会軟式野球競技】
準決勝　盛岡一　2―3　専大北上
【第68回全国高等学校軟式野球選手権岩手大会】
1回戦　盛岡一　9―3　盛岡商
準決勝　盛岡一　0―8　専大北上

【第63回岩手県高等学校軟式野球新人大会】
1回戦　盛岡一　4―6　一関一

バスケットボール部 R4

【第68回岩手県高等学校新人大会】
男子
2回戦　79―64　千厩
3回戦　66―99　一関工
女子
1回戦　102―37　北上翔南
2回戦　39―48　盛岡南
ベスト16

R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会】
男子
3回戦　83―53　水沢工
4回戦　69―91　花巻東
ベスト16
女子
2回戦　104―60　一戸
3回戦　55―77　水沢一
ベスト16

バドミントン部 R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会バドミントン競技】
男子学校対抗　2回戦進出
女子学校対抗　2回戦進出
女子ダブルス
岸麗生・村松百々花　出場
男子シングルス　赤坂祐生　出場
女子シングルス　佐々木碧唯
2回戦進出

【第59回岩手県高等学校新人登山大会】
男子学校対抗の部　第1位　97・9
佐々木克志、内澤昊太郎、松田悠清、照井仁知翔
女子学校対抗の部　第1位　99・0
岡野楓華、中舘玲来、川村鞠采、奥田ひらり

【燃ゆる感動かごしま国体2023スポーツクライミング競技】
ボルダリング競技
少年女子岩手チーム　第16位
佐藤凛歩
リード競技
少年女子岩手チーム　第14位
佐藤凛歩

【第13回岩手県高校生スポーツクライミング大会兼第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会岩手県予選会】
男子リードの部
斉藤祐俊　第11位
女子リードの部
佐藤凛歩　第2位
川村鞠采　第3位

【スポーツクライミングジャパンツアー2023スピード第4戦】
スピード女子　川村鞠采　第3位

部活動の記録

令和4年12月～令和5年11月の大会結果について

（11面から続く）

【第68回岩手県種目別バドミントン選手権大会】
男子ダブルス
遠藤大翔・熊谷陸　出場
赤坂祐生・山内隆星　3回戦進出
女子ダブルス
板井彩奈・坂本まひろ　出場
岸麗生・村松百々花　2回戦進出
男子シングルス
宇佐美俊　出場
赤坂祐生　3回戦進出
女子シングルス
岸麗生　出場
村松百々花　2回戦進出
女子ダブルス
岸麗生・村松百々花　2回戦進出
男子シングルス
山内隆星　出場
赤坂祐生　2回戦進出
女子シングルス
村松百々花　出場
板井彩奈　出場
村松百々花　出場

【第42回全日本ジュニアバドミントン選手権大会ジュニアの部岩手県代表選考会】
女子ダブルス
岸麗生・村松百々花　2回戦進出
男子シングルス
山内隆星　出場
赤坂祐生　2回戦進出
女子シングルス
村松百々花　出場
男子学校対抗　ベスト8
女子学校対抗　ベスト16
男子ダブルス
遠藤大翔・熊谷陸組　2回戦進出
赤坂祐生・山内隆星組　2回戦進出
女子ダブルス
岸麗生・村松百々花組　2回戦進出
男子シングルス
赤坂祐生　2回戦進出
女子シングルス
板井彩奈　出場
村松百々花　出場

【第63回岩手県高等学校新人バドミントン大会】
男子学校対抗　ベスト8
女子学校対抗　ベスト16
男子ダブルス
遠藤大翔・熊谷陸組　2回戦進出
赤坂祐生・山内隆星組　2回戦進出
女子ダブルス
岸麗生・村松百々花組　2回戦進出
男子シングルス
赤坂祐生　2回戦進出
女子シングルス
村松百々花　出場

バレーボール部

R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会バレーボール競技】
男子
1回戦　盛岡一　0―2　花北青雲
女子
1回戦　盛岡一　0―2　千厩

【第16回岩手県高等学校秋季ハンドボール大会】
1回戦　盛岡一　30―15　盛岡商
2回戦　盛岡一　28―10　盛岡市立
3回戦　盛岡一　14―25　不来方
ベスト8

ハンドボール部

R5

【第75回岩手県高等学校総合体育大会ハンドボール競技】
1回戦　盛岡一　26―32　花巻北

【第67回岩手県高等学校新人ハンドボール大会】
1回戦　盛岡一　50―12　水沢工
2回戦　盛岡一　15―29　花巻北
ベスト8

ラグビー部

R5

【令和5年度第10回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会　岩手県予選】
1回戦　盛岡一　0―34　黒沢尻北
敗者戦　盛岡一　10―38　盛岡工

【第75回岩手県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール競技】
1回戦　盛岡一　0―51　黒沢尻北
5位・7位決定戦　盛岡一　5―27　花巻東
第7位

【第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会岩手県大会】
1回戦　盛岡一　31―0　盛岡三・盛岡北・岩手
2回戦　盛岡一　5―55　黒沢尻工

【令和5年度岩手県高等学校新人大会ラグビーフットボール競技】
1回戦　盛岡一　0―86　盛岡工
5位・7位決定戦　盛岡一　5―33　不来方・盛岡南
第7位

陸上競技部

R4

【大船渡市制施行70周年記念　大船渡新春四大マラソン大会　第60回10キロロードレース・第1回5キロロードレース岩手県大会】
男子10キロ　吉田大起　第33位
菅原徹平　第41位
前原知志　第47位
正木快歩　第50位
大志田悠理　第52位
大澤典佳　第5位
女子5キロ

R5

【2023岩手県春季陸上競技大会】
男子
走幅跳　丹野正知　第1位
三段跳　丹野正知　第2位
砲丸投　村守壮太　第1位
女子
走幅跳　宮野涼叶　第3位
三段跳　宮野涼叶　第1位

【第75回岩手県高等学校総合体育大会陸上競技】
男子（総合第8位　フィールドの部第3位）
400m　平野蒼士　第3位
4×400mR　丹野正知・佐藤葵・平子新・平野蒼士　第6位
走幅跳　丹野正知　第1位
三段跳　丹野正知　第1位
砲丸投　村守壮太　第1位
円盤投　村守壮太　第6位
女子（フィールドの部第5位）
100mH　大澤典佳　第7位
3000m　住吉彩季　第7位
走幅跳　宮野涼叶　第3位
三段跳　住吉彩季　第4位
砲丸投　宮野涼叶　第3位
七種　鈴木彩葉　第6位
佐藤瑚々花　第4位

【第78回東北高等学校陸上競技大会】
男子（フィールドの部　第4位）
400m　平野蒼士　準決勝進出
4×400mR　平野蒼士・佐藤葵・平子新・馬場凜星　出場
走幅跳　丹野正知　第7位
三段跳　丹野正知　第1位
砲丸投　村守壮太　第3位
円盤投　村守壮太　第24位
女子
走幅跳　住吉彩季　第12位
三段跳　宮野涼叶　第6位
住吉彩季　第13位
宮野涼叶　第10位
鈴木彩葉　第28位
七種　佐藤瑚々花　第16位

【2023岩手県陸上競技選手権大会兼特別国民体育大会選手選考会兼第50回東北総合体育大会選手選考会】
男子
1部4×100mR　工藤大和・馬場凜星・佐藤葵・丹野正知　第6位
1部走幅跳　丹野正知　第4位
1部三段跳　丹野正知　第3位
2部100m　工藤大和　第5位
2部400mR　佐藤葵・梅澤太一・板橋慧・村守壮太　第4位
2部走幅跳　村守壮太　第1位
2部砲丸投　大道輝　第7位
三段跳　丹野正知　第3位
女子
1部走幅跳　宮野涼叶　第3位
1部三段跳　宮野涼叶　第3位
1部4×100mR　工藤大和・馬場凜星・佐藤葵・丹野正知　第6位
1部走幅跳　丹野正知　第4位
1部三段跳　丹野正知　第3位
2部100m　工藤大和　第5位
2部400mR　佐藤葵・梅澤太一・板橋慧・村守壮太　第5位
2部走幅跳　村守壮太　第4位
2部砲丸投　大道輝　第7位
三段跳　丹野正知　第3位

【2023第75回岩手県民体育大会陸上競技大会兼第17回U18陸上競技大会対象競技会】
男子
2部200m　平野蒼士　第5位
2部300m　平野蒼士　第1位
2部三段跳　丹野正知　第1位
2部砲丸投　村守壮太　第6位
1・2部4×100mR　及川琉太郎・工藤大和・平野蒼士・佐藤葵　第5位
1・2部4×400mR　平野蒼士・工藤大和・梅澤太一・志知倖之介　第5位
3部100m　工藤大和　第3位
3部3000m　鈴木緑葉　第4位
3部走幅跳　板橋慧　第1位
3部円盤投　大道輝　第5位
女子
1・2部1500m　大澤典佳　第8位
1・2部走幅跳　宮野涼叶　第4位
3部100mH　森川心稀　第4位
3部円盤投　鈴木彩葉　第6位
1・2部4×400mR　平野蒼士・佐藤葵・工藤大和・梅澤太一・志知倖之介　第5位

【令和5年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会　秩父宮賜杯第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会】
男子
三段跳　丹野正知　第7位
砲丸投　村守壮太　出場
女子
走幅跳　宮野涼叶　出場

【第74回岩手県高等学校新人陸上競技大会】
男子（総合6位　トラック7位　フィールド3位）
100m　工藤大和　第6位
200m　工藤大和　第7位
400m　平野蒼士　第1位
800m　吉田大起　第4位
1500m　梅澤太一　第7位
4×100mR　鈴木緑葉　第7位
走幅跳　平野蒼士・工藤大和・佐藤葵・丹野正知　第5位
三段跳　工藤大和　第7位
砲丸投　大道輝　第7位
円盤投　丹野正知　第6位
4×400mR　丹野正知・工藤大和・平野蒼士・佐藤葵　第5位
女子（総合7位　フィールド4位）
100m　大澤典佳　第3位
200m　大澤典佳　第8位
400m　森川心稀　第7位
1500m　宮野涼叶　第2位
3000mW　沢田茉央　第8位
走幅跳　宮野涼叶　第8位
三段跳　宮野涼叶　第2位
砲丸投　鈴木彩葉　第3位
4×400mR　大澤典佳・佐藤葵・丹野正知・工藤大和　第3位

【第28回東北高等学校新人陸上競技選手権大会】
男子
400m　平野蒼士　第3位
800m　吉田大起　出場
走幅跳　丹野正知　第9位
三段跳　丹野正知　第1位
砲丸投　大道輝　第15位
女子
1500m　大澤典佳　出場
走幅跳　宮野涼叶　第5位
三段跳　宮野涼叶　第8位
砲丸投　鈴木彩葉　第2位
4×400mR　平野蒼士・佐藤葵・丹野正知・工藤大和　第2位

【全国高等学校駅伝競走大会岩手県予選会】
男子　第6位
鈴木緑葉・梅澤太一・大志田悠理・吉田大起・中山蒼一朗・岡本範音・志知倖之介
女子　区間5位相当（他校との合同チーム）　大澤典佳

【JOCジュニアオリンピックカップ第17回U18陸上競技大会】
男子　三段跳　丹野正知　第2位

【2023岩手県秋季陸上競技大会】
男子
400m　平野蒼士　第3位
4×100mR　平野蒼士・工藤大和・佐藤葵・丹野正知　第1位
砲丸投　大道輝　第3位
女子
走幅跳　宮野涼叶　第3位
砲丸投　鈴木彩葉　第2位

■文化部

囲碁将棋部

R4

【第23回東北地区高等学校将棋新人大会】
女子個人戦　第7位
早川まなほ　第5位

【第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会】
細川莉緒　決勝トーナメント進出
佐々木杏菜　出場

R5

【第17回全国高等学校囲碁選抜大会】
団体戦
男子　第8位
畠山空・佐藤志斗・吉田恵太・藤森久遠
女子　第4位
大梶華子・細川莉緒・高橋理子・佐々木杏菜
9路盤戦
女子　大梶華子　第15位

【第47回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権岩手県大会】
男子個人
A級　畠山空　第2位
佐藤志斗　第3位
吉田恵太　出場
藤森久遠　出場
佐々木一真　出場
千葉紘也　出場
宮野慎梧　出場
B級　蔵本脩　出場
西舘碧埼　出場
田渕慎　出場
齊藤至道　出場
及川理人　出場
C II級　稲森太祐　出場
熊谷陸　出場
髙橋逞　出場
紺野恭右　出場
斗ケ澤宏典　出場
女子個人
A級　大梶華子　第1位
細川莉緒　第2位
高橋理子　出場
佐々木杏菜　出場
早川まなほ　出場
遠藤優季　出場
B級　佐藤ひなた　出場
熊谷陸　出場
髙橋逞　出場
紺野恭右　出場
斗ケ澤宏典　出場

【令和5年度岩手県高等学校セミナーサポート事業「岩手県高校生囲碁講習会兼高校級別囲碁大会」】
A I級　吉田恵太　第1位
畠山空　第2位
佐藤志斗　出場
A II級　蔵本・西舘・佐々木杏　出場
B2　田渕・齊藤・早川　出場
B1　第2位
B I級　大梶・細川・高橋　第1位
女子団体A級　第1位
藤森・佐々木一・千葉　第4位
A2　畠山・佐藤志・吉田　第1位
男子団体A級　丹野正知・佐藤葵・平子新・平野蒼士　第1位
A1　第1位
女子団体A級　藤森・佐々木一・千葉　第1位
大梶・細川・高橋　第2位

【令和5年度岩手県高等学校総合文化祭囲碁部門】
大梶華子　第1位
千葉紘也　出場
宮野慎梧　出場
高橋理子　出場
B級　遠藤優季　出場
佐々木杏菜　出場
齊藤至道　出場
C II級　紺野恭右　出場
斗ケ澤宏典　出場
佐藤ひなた　出場

【第36回全国高等学校将棋竜王戦岩手県予選】
第22回岩手県高等学校文化連盟将棋竜王戦
第33回岩手県高等学校級別将棋大会】
個人戦A級　及川理人　第1位
田渕慎　第3位
佐々木一真　第4位
蔵本脩　ベスト8
齊藤至道　出場
個人戦B級　細川莉緒　第3位
堀江倖生　第9位
佐々木杏菜　第13位
早川まなほ　第15位
紺野恭右　第28位
大梶華子　第41位
高橋理子　第45位
斗ケ澤宏典　第45位
個人戦C級　高橋逞　第2位
遠藤優季　第32位
宮野慎梧　第48位
佐藤ひなた　第53位

【第47回全国高等学校総合文化祭2023かごしま総文囲碁部門】
団体戦（男女混合での都道府県対抗戦）第27位
畠山空・佐藤志斗・細川莉緒
女子個人戦　大梶華子　第16位

【第47回全国高等学校総合文化祭2023かごしま総文将棋部門】
男子団体戦　第21位
及川理人・佐々木一真・蔵本脩
女子団体戦　決勝トーナメント進出
佐々木杏菜・早川まなほ・細川莉緒
男子個人戦　田渕慎　出場
女子個人戦　高橋理子　出場

【第47回文部科学大臣杯全国高等学校囲碁選手権大会】
男子団体　出場
畠山空・佐藤志斗・吉田恵太・千葉紘也
女子団体　第7位
大梶華子・細川莉緒・高橋理子・佐々木杏菜
男子個人戦　畠山空　出場
女子個人戦　細川莉緒　出場
大梶華子　出場

【第36回全国高等学校将棋竜王戦】
及川理人　第3位

【第46回岩手県高等学校総合文化祭囲碁部門】
第32回岩手県高等学校文化連盟囲碁新人大会】
男子個人A級　第2位
吉田恵太　出場
宮野慎梧　出場
佐々木一真　出場
女子個人戦　大梶華子　第1位
細川莉緒　第3位
高橋理子　2回戦進出
佐々木杏菜　2回戦進出
遠藤優季　2回戦進出
佐藤ひなた　2回戦進出
個人B級　齊藤至道　出場
個人C I級　紺野恭右　出場
戸ヶ澤宏典　出場
個人C II級　稲森太祐　出場
岡本範音　出場
男子団体A級　第1位
吉田・宮野・佐々木一　出場
女子団体A級　盛岡一A1　第1位
大梶・細川・高橋　第3位
盛岡一A2　遠藤・佐々木杏・佐藤　第3位
団体B級　齊藤・戸ヶ澤・紺野　2回戦進出

【第42回岩手県高等学校文化連盟将棋新人大会】
男子個人戦A級　及川理人　第1位
田渕慎　第2位
佐々木一真　第5位
吉田恵太　出場
齊藤至道　出場
男子個人戦B級　堀江倖生　第1位
紺野恭右　第13位
宮野慎梧　第26位
斗ケ澤宏典　第45位
女子個人戦　細川莉緒　第2位
佐々木杏菜　第3位
大梶華子　第4位
高橋理子　2回戦進出
遠藤優季　出場
佐藤ひなた　出場
女子団体戦　第1位　盛岡一A1（佐々木、細川、高橋）
第2位　盛岡一A2（大梶、遠藤、佐藤）
団体戦A級　第2位　盛岡一A1（及川、佐々木、田渕）
第6位　盛岡一A2（齊藤、吉田、紺野）
団体戦B級　第19位　盛岡一B（斗ケ澤、宮野）

【第37回東北地区高等学校囲碁選手権大会】
県対抗戦の部
男子　岩手　第3位　吉田恵太
女子　岩手　第1位　大梶華子、細川莉緒

英語部

R4

【第8回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会＊オンライン開催】

塩井琴音・田端天翔・細越瀬奈
第15位入賞　ベストPOI賞　田端天翔

R5
【第12回日本高校生パーラメントリーディベート連盟杯（HPDU杯）岩手県大会＊オンライン開催】
第2位　池田美桜・吉田さくら・井筒彩花

【第12回日本高校生パーラメントリーディベート連盟杯（HPDU杯）全国大会】
第37位　道地咲来・井筒彩花・松野心咲

【第11回岩手県 Kenji Cup 高校生英語ディベート大会 Online】
盛岡一Ａ　準優勝　池田美桜・吉田さくら・阿部あずさ・道地咲来・井筒彩花・松野心咲
盛岡一Ｂ　第3位　渡辺果歩・木村美海・于佳澄・佐々木智子・中澤純平・藤井捺希
ベストディベーター　池田美桜

演劇部

R5
【第77回岩手県高文連演劇専門部　県北・北盛岡地区発表会】
「ハッピーデスデイ」（作　浅沼良彦）
優良賞

【第46回岩手県高等学校総合文化祭演劇部門発表会】
生徒講評部門　野里真心
最優秀生徒講評委員

音楽部

R4
【第32回岩手県合唱小アンサンブルコンテスト】
チームＡ　金賞
チームＢ　金賞
チームＣ　銀賞

R5
【第75回全日本合唱コンクール岩手県大会】
金賞

【第75回全日本合唱コンクール東北支部大会】
金賞

写真部

【第46回岩手県高等学校総合文化祭写真部門、第42回岩手県高等学校写真展】
古川杏実「どこ行くのー!?」　入選

書道部

R5
【第21回岩手県高等学校書道作品コンクール】
奨励賞　森田結子・太田温菜・横山和沙

【第18回岩手日報高校書展】
日報大賞　馬場悠歌
秀逸賞　吉田彩乃
入選　小山倫佳・太田温菜
佳作　岡田卓士・横山和沙・菊池紬月・西川さくら・森田結子・森川心稀・大川真奈・斉藤菜々・佐々木俊輔・渡辺果歩

【第67回書宗院展・学生部】
優秀賞　馬場悠歌・横山和沙

【第24回高校生国際美術展】
岩手県知事賞　馬場悠歌
佳作　吉田彩乃・岡田卓士・小山倫佳・横山和沙・西川さくら・森田結子・森川心稀・大川真奈・斉藤菜々

【第45回全国公募千字文大会】
〈条幅・漢字部門〉
伊豆新聞社賞　菊池紬月
優秀賞　太田温菜
秀作賞　森田結子・西川さくら・大川真奈
〈条幅・新和様部門〉
特選　菊池紬月
優秀賞　太田温菜
秀作賞　西川さくら・大川真奈・森田結子
佳作　森川心稀・斉藤菜々
〈半紙・漢字部門〉
特選　渡辺果歩
優秀賞　斉藤菜々
秀作賞　森川心稀・佐々木俊輔
〈半紙・新和様部門〉
優秀賞　佐々木俊輔・渡辺果歩

【第45回ふれあい書道展】
〈条幅の部〉
筆都大賞　横山和沙
特選　吉田彩乃・岡田卓士・菊池紬月・太田温菜・西川さくら
奨励賞　馬場悠歌・小山倫佳・森田結子・森川心稀・大川真奈・斉藤菜々
〈半紙・漢字部門〉
特選　菊池紬月・太田温菜・西川さくら・大川真奈
〈条幅・新和様部門〉
特選　菊池紬月
優秀賞　森川心稀・佐々木俊輔
〈半紙・新和様部門〉
優秀賞　佐々木俊輔・渡辺果歩

【第45回岩手県高等学校総合文化祭書道部門】
〈全紙の部　漢字・仮名部門〉
優秀賞　横山和沙
奨励賞　菊地紬月
入選　吉田彩乃・馬場悠歌・岡田卓士・小山倫花・太田温菜・西川さくら・森田結子・大川真奈・斉藤菜々・佐々木俊輔
〈半切の部　漢字・仮名部門〉
奨励賞　渡辺果歩

【第73回全日本学生書道展】
旺文社賞　菊地紬月
学会優秀賞　西川さくら
学会奨励賞　太田恩菜・横山和沙
秀作賞　森川心稀、大川真奈、斉藤菜々、森田結子、小山倫化、馬場悠歌
佳作　佐々木俊輔、渡辺果歩

吹奏楽部

R4
【アンサンブルコンテスト岩手県大会】
フルート3重奏　金賞　長澤優夏里・岩渕莉奈・遠藤真理子
サクソフォン4重奏　金賞　菅原沙恵・鈴木和子・葛巻葵・稲塚みゆ

R5
【第50回東北アンサンブルコンテスト】
フルート3重奏　銀賞　長澤優夏里・岩渕莉奈・遠藤真理子
サクソフォン4重奏　銅賞　菅原沙恵・鈴木和子・葛巻葵・稲塚みゆ

美術部

R4
【第54回岩手広告美術展】
高校生グラフィックの部
岩手広告美術賞　松本侑也
優秀賞　田鎖奏羽
奨励賞　中村琴・佐々木杏菜・小田英虎・三浦ひかり
特別賞　県商工会連合会長賞　松本侑也
学校賞

R5
【第46回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展】
絵画部門
入選　足立七葉、城戸杏奈、楠山響珂、三浦ひかり、田鎖奏羽、小田英虎、三谷朋加、佐々木杏菜、稲塚みゆ

R5
【第61回　岩手県吹奏楽コンクール】
高等学校の部　金賞
【第66回東北吹奏楽コンクール】
高等学校の部　銀賞

生物部

R4
【第69回岩手県高等学校理科研究発表会及び第45回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】
研究発表部門
最優秀賞
「ナガコガネグモのカフェイン暴露による造網行動への影響」
高橋大和・橋本由生・藤森久遠
優秀賞
「蘚類群落におけるクマムシ類の環境指標としての有用性」
今松美緒・高橋桃佳・清水晶子・菊地聖武・高橋稀琳・牛坂心咲
ポスター（パネル）発表部門
最優秀賞
「ナガコガネグモのカフェイン暴露による造網行動への影響」
高橋大和・橋本由生・藤森久遠
優秀賞
「蘚類群落におけるクマムシ類の環境指標としての有用性」
今松美緒・高橋桃佳・清水晶子・菊地聖武・高橋稀琳・牛坂心咲
ポスター（パネル）発表部門
最優秀賞
「ナガコガネグモのカフェイン暴露による造網行動への影響」
高橋大和・橋本由生・藤森久遠

R5
【第47回全国高等学校総合文化祭かごしま総文自然科学部門】
研究発表部門
「蘚類群落におけるクマムシ類の環境指標としての有用性」
今松美緒・高橋桃佳・清水晶子
ポスター（パネル）発表部門
高橋大和・橋本由生・藤森久遠

天文部

R4
【第69回岩手県高等学校理科研究発表会及び第45回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】
優秀賞
「盛岡市における光害調査」
藤澤響大・間瀬寛大・坂本仁史・髙宮大起・川﨑正樹・安久都悟志・米澤耕生・松長馳弥

R5
【令和5年度「星空の街・あおぞらの街」全国協議会表彰】
環境大臣賞

物理部

R4
【令和4年度いわてのものづくり高校生　サイエンス&エンジニアリング　チャレンジコンテスト】
第3位　放射線の遮蔽と密度の関係
小林律花・菊地聖武・小長根凌・小野寺樂陽・鈴木琉斗・佐々木煌心・高橋稀琳

R5
【第18回ウェブデザイン技能競技会】
出場　稲田祥太・岩崎簾・田口椋琥・小瀬川真先

【第21回全国高等学校パソコンコンクール　パソコン甲子園2023】
モバイル部門　出場
高橋玲・似内冠太・小林律花

【SupercomputingContest2023　本選】
チーム「JA7YAF」　第13位
小野寺樂陽・菊地聖武・小瀬川真先

【第65回 ALL JA コンテスト】
電信電話部門
マルチオペジュニア種目　第2位
小野寺樂陽、菊地聖武、小林律花、岸本和華、小長根凌、坂本純羚、鈴木琉斗、高橋稀林、田淵慎、野場希海

文学研究部

R4
【第37回全国高等学校文芸コンクール】
詩部門
優良賞　佐々木麻佑子「旅行記」

R5
【第26回俳句甲子園　地方大会】
出場
宮崎祐奈子・藤倉万結・伊藤蓮人・佐々木麻佑子

【第18回全国高校生短歌大会（短歌甲子園2022）】
団体戦　出場
野場・西川・佐々木
個人戦　西川さくら　決勝進出

【第46回岩手県高等学校総合文化祭文芸部門　岩手県高校生文芸コンクール】
詩部門
優良賞　宮崎祐奈子「夢でいて」
入選　西川さくら「それならあめいろ」
小説部門
入選　武田風雅「暇」

【第25回高等学校文化連盟全国文芸専門部　北海道・東北大会　山形大会】
参加者：宮崎祐奈子

放送委員会

R4
【第26回東北高等学校放送コンテスト】
【アナウンス部門】
優良賞　島守心音
入選　藤原詩
【朗読部門】
奨励賞　楠山響珂

R5
【第46回岩手県高等学校総合文化祭放送部門大会　兼　第70回NHK杯全国高校放送コンテスト岩手県大会】
〈アナウンス部門〉
優秀賞　島守心音
優良賞　藤原詩
〈朗読部門〉
優良賞　楠山響珂
〈ラジオドキュメント部門〉
最優秀賞「青春の祝詞」
〈テレビドキュメント部門〉
優良賞「101年目の活舞臺」
〈創作ラジオドラマ部門〉
最優秀賞「まばゆいきみへ」
〈創作テレビドラマ部門〉
最優秀賞「あなたへのラブレター」

【第70回NHK杯全国高校放送コンテスト】
〈アナウンス部門〉
島守心音　準々決勝進出
藤原詩　準々決勝進出
〈朗読部門〉
楠山響珂　準々決勝進出
〈ラジオドキュメント部門〉
「青春の祝詞」準々決勝進出
〈テレビドキュメント部門〉
「101年目の活舞台」準々決勝進出
〈創作ラジオドラマ部門〉
「今日も鯨は空を飛ぶ」
準々決勝進出
〈創作テレビドラマ部門〉
「あなたへのラブレター」
準々決勝進出

【第47回全国高等学校総合文化祭かごしま総文放送部門】
〈アナウンス部門〉
藤原詩　出場
〈オーディオメッセージ部門〉
「ずっと岩手に寄りしょうゆ！」
出場

その他

R4
【第12回科学の甲子園全国大会】
総合第14位　帝人賞
〈企業特別賞　女子生徒応援賞〉
堀間涼太・今松美緒・田頭陽向・櫻田尚哉・佐々木響・藤澤響大・似内冠太・櫻田うた

R5
【令和5年度科学の甲子園岩手県大会】
総合第1位
櫻田うた・川村健悟・菊地聖武・菊池理愛・岸本和華・小林律花・高橋稀琳・松岡夫嗣

【第46回岩手県高校生読書体験記コンクール】
優秀賞　平田結乃・岩崎旻奈

【2023年度第42回牛乳・乳製品利用料理コンクール岩手県大会】
優良賞　松尾はぐみ

令和５年度　大学合格者数一覧

国立大学

大学名	現役	過卒
旭川医大		1
北海道大	10	2
弘前大	3	1
岩手大	18	4
東北大	32	4
秋田大	5	1
山形大	1	1
福島大	1	1
茨城大	2	
筑波大	3	1
宇都宮大	1	
群馬大	1	
埼玉大	4	1
千葉大	7	1
お茶の水女子大		1
電気通信大		2
東京大	2	4
東京医歯大	1	
東京学芸大	2	1
東京工業大	1	3
東京農工大	1	1

大学名	現役	過卒
一橋大	1	
横浜国立大	6	3
新潟大	1	
静岡大	2	
名古屋大	1	
奈良女子大		1
奈良教育大	1	
京都大		1
大阪大	1	3
広島大		2
香川大	1	
九州大	1	
合計	110	40

公立大学

大学名	現役	過卒
青森県立保健大	1	
岩手県立大	3	2
宮城大	1	
秋田県立大	1	
福島県立医大	1	
会津大		1
高崎経済大	4	
埼玉県立大	1	
東京都立大	3	
横浜市立大	2	
都留文科大	1	1
静岡県立大	2	
和歌山県立医大		1
合計	20	5

私立大学

大学名	現役	過卒
東北学院大	5	
東北工業大	2	4
東北福祉大	4	2
東北医科薬科大	7	
国際医療福祉大	5	
文教大	4	
青山学院大	5	6
学習院大	4	2
北里大	5	2
慶應義塾大	3	6
工学院大	3	3

大学名	現役	過卒
國學院大	4	1
国際基督教大	1	
駒澤大	6	6
芝浦工業大	7	17
順天堂大	4	
上智大	10	3
中央大	16	19
津田塾大	2	3
東海大	5	5
東京農業大	7	
東京理科大	7	23
東洋大	5	11
日本大	10	13
日本獣医生命大		1
法政大	21	18
明治大	23	13
明治学院大	5	1
明星大	6	
立教大	6	5
早稲田大	14	10
同志社大	6	3
立命館大	3	2
その他	51	30
合計	266	209

その他

大学名	現役	過卒
防衛大学校	1	
その他	3	
合計	4	0

医学部医学科

大学名	現役	過卒
旭川医大		1
弘前大	1	
東北大	2	
秋田大	2	1
広島大		1
和歌山県立医大		1
岩手医科大	9	2
東北医科薬科大	2	
自治医科大	2	
獨協医科大	1	1
埼玉医大	1	
兵庫医大		1
合計	20	8



海外派遣「白聖の翼」報告

2年7組　高橋 稀琳

体で感じる何もかも全てがフレッシュなビクトリアで試行錯誤した２週間、派遣生10人それぞれが人生の財産となる有意義な経験が得られました。

オールイングリッシュで行われる議論中心の学校の授業で私は苦戦しました。英語で聞いて英語で理解し英語で伝えるという英語尽くしの学習では、自分の英語力の未熟さと思うように伝えられない悔しさを痛感し、何度も壁に直面しました。派遣生の仲間と協力し、真剣に思考した授業で新しい考え方を吸収でき、濃い学習でした。

ビクトリアは豊かな自然に恵まれた美しい街で、今でもその雄大さを鮮明に覚えています。ハイキング、バードウォッチング、カヤッキングなどを通じ全身でビクトリアを満喫しました。私は自然に対する人々の愛情と畏敬の念が壮大な自然との共生を実現しているのだと思います。自然の豊かさという言葉の真の意味を知る体験でした。

このような貴重な経験ができたのは同窓会を始めとする様々な方のご支援のおかげであり、大変感謝しています。最後に、私達派遣生は世界に貢献できる国際人になれるよう、自分達にできる精一杯を積み重ねたいと思います。



引率者　千葉 慶多

創立100周年を記念して発足した生徒海外派遣事業「白聖の翼」は令和元年度から令和３年度までは新型コロナウイルス感染症を理由に中止となっていましたが、令和４年度で第44回を迎えることができました。白聖同窓会の皆さまのご尽力に心から感謝申し上げます。

４年ぶりの「白聖の翼」の研修先は、盛岡市の偉人・新渡戸稲造との縁から盛岡市と姉妹都市提携を結んでいるカナダ・ブリティッシュコロンビア州の州都・ビクトリア。午前中は現地ベテラン講師陣によるビクトリアが抱えるＳＤＧｓに関する社会問題について講義を受け、午後は関連するアクティビティを通して社会問題を自分事として落とし込むことができました。また、M探（総合的な探究の時間）のテーマで充実したフィールドワークを行うことができました。最終日にはそれらの研修成果を英語で発表し、英語力や発信力に自信がついた生徒たちでした。

海外派遣研修「白聖の翼」は、白聖同窓会からの多大なるご支援に支えられております。東北地方でも稀有な事業である「白聖の翼」を経験した生徒が、グローバルリーダーとして世界に飛躍することを期待しております。

第３回 白聖應援旗祭開催される

～校歌、応援歌を謳える喜びを噛みしめながら～



撮影：大森真優子（写真部1年）

8月26日（土）、コロナ禍で開催を延期していた白聖應援旗祭が４年ぶりに開催されました。

この日の最高気温は猛暑日に迫る34・3℃。東の空には巨大な入道雲。ジリジリと肌に刺す音が聞こえるような日差しの下、現役生（2年生）から昭和43年卒の大先輩まで、総勢50名の猛者達が白聖の庭に集いました。

午後４時、法螺貝が時を告げ、昭和63年度應援團長で、母校で教鞭を取られている川村昌広先生のリードで校歌を斉唱。周囲に気兼ねすることなく、声高らかに謳える日常が戻ってきた幸せを誰もが噛みしめている様子です。

藤尾善一同窓会長から高らかに開会宣言がなされ、高橋一佳校長先生からご祝辞をいただいた後、應援旗祭のこだわり三原則『校歌と全ての應援歌を放吟する、歌詞は省略しないで全て放吟する、可能な限り多くの應援旗でリードをとる』に従って、いよいよ應援歌の放吟です。

應援歌のリードは、参加する應援委員経験者が1曲ずつ交代で務めるのが習わし。しかも、どの應援歌で誰がどの台に上がるかはその場で決まります。ぶっつけ本番で、その日初めて会った、歳の離れた先輩、後輩と一緒に旗を振ることも應援旗祭の醍醐味の一つ。

第一應援歌から順に放吟です。皆、ぴたりと息を合わせての旗振り、さすがです。一方で、寄る年波には勝てず？息が続かなかったり、台の上で多少よろけたりするのはご愛敬。暑さの中、台の上でも下でも、皆さん顔を真っ赤にしながら謳っています。第六應援歌では、皆で肩を組んで深く腰を落とし、左右に体を大きく揺らしながらの放吟。「来年こそは、野球の決勝戦でこうして謳いたいなぁ」との声も…。

酷暑の中、熱中症の不安もありましたが、汗だくになりながら、無事に第十應援歌まで謳い切りました。最後は、千葉隆史同窓会副会長からの次回開催に向けた宣言「次回は3年後、令和8年の白聖祭で会おう。ただし、甲子園出場の折はこの限りにあらず。アルプススタンドで会おう」を参加者全員の拍手で採択し、應援旗祭は幕を閉じました。



閉幕後も名残惜しかったのか、厳しかった日差しがようやく弱まり、周囲が薄暗くなるまで、近況報告や思い出話、應援談義に花を咲かせていました。

コロナに振り回されたこの数年、それまで当たり前だった多くのことが自粛あるいは禁止されてきましたが、声出し應援もその一つでした。そのような困難な状況下で、また、世の中の動きや価値観が目まぐるしく変化する中にあっても、歴代の應援委員や一高生が、校歌、應援歌を変わらずに謳い継いでくれていることに敬意を表します。

そして、應援旗祭が、次回もその次も当たり前にできる世の中であり続けて欲しいと切に願うものです。

平成元年度應援團長
大　森　健　一
（白聖同窓会　常任幹事）

恵　贈　（敬称略）

①GooK man　パンドーラーの壺　ノート三集
戸田 忠祐（昭和20年4年卒）
高橋 修三（昭和51年卒）

②「おめでとう甲子園出場燃えよ“白聖魂”」
1978年IBC岩手放送のCD等
菊池 大成（昭和57年卒）

③召されて妻は天国へ　山縣 尚武（昭和39年卒）
玉懸 隆一（昭和39年卒）

④東日本大震災からの10年
一心の復興と新たなコミュニティの創造一
三舩 康道（昭和43年卒）
三舩 康道（昭和43年卒）

⑤在京白聖會50年の歩み　在京白聖会

⑥第60回全国高校野球選手権大会
甲子園出場選手のサインボール
八角 有紀（平成６年卒）

⑦凌雲　思うがまま　中野 充裕（昭和52年卒）
中野 充裕（昭和52年卒）

⑧寄付金（45,766円）昭和33年卒（在盛有志）

⑨寄付金（73,840円）全国三乢会（昭和37年卒）

⑩寄付金（10,000円）
齋藤 久美子（故：昭和19年卒齋藤陞氏 長女）

⑪「秋高百五十年史」秋田県立秋田高等学校

⑫寄付金（111,344円）
白聖成田会有志一同（昭和46年卒）

⑬寄付金（160,121円）　昭和38年卒同期会

白聖同窓会Webページ

hakua-dousoukai.jp

同窓会の活動を多くの会員に知っていただき、会員相互の交流に役立てたいという趣旨で、平成31年３月31日に開設しました。ぜひご活用願います。

Facebook アカウント　白聖同窓会
X（旧Twitter）アカウント　白聖同窓会

訃報

昭和19年卒	齋藤	陞	
昭和20年4年卒	阿部	功	
昭和20年4年卒	穂積	昭慈	
昭和23年卒	鎌田	日出男	
昭和23年卒	柳田	宏	
昭和25年卒	小野寺	瑞穂	
昭和25年卒	神尾	悟	
昭和25年卒	下長根	春生	
昭和25年卒	長沼	繁夫	
昭和25年卒	砂子	友男	
昭和25年卒	深倉	祐清	
昭和25年卒	村井	啓悦	
昭和26年卒	大槻	齊	
昭和27年卒	菅原	泰男	
昭和27年卒	宮野	宏一	
昭和27年卒	畠山	淳	
昭和29年卒	興津	維信	
昭和31年卒	牟田	他人	
昭和33年卒	三浦	幾子	
昭和33年卒	湯澤	あや子	
昭和34年卒	佐々木	一樹	
昭和34年卒	内藤	千春	
昭和35年卒	関村	吾朗	

平成元年卒	佐々木	傳	
昭和58年卒	尾形	文智	
昭和49年卒	和久井	宣克	
昭和48年卒	依田	修	
昭和48年卒	山崎	潔	
昭和48年卒	大平	武志	
昭和48年卒	上野	吉伸	
昭和46年卒	中村	泉	
昭和46年卒	斉藤	保	
昭和46年卒	大信田	尚樹	
昭和44年卒	佐々木	裕	
昭和43年卒	千葉	千賀子	
昭和42年卒	熊谷	潤一	
昭和41年卒	澤田	裕	
昭和40年卒	竹花	圭一	
昭和40年卒	高橋	忠孝	
昭和38年卒	古沢	正光	
昭和38年卒	早川	整子	
昭和37年卒	小田	義治	
昭和37年卒	吉田	恭子	
昭和37年卒	村井	軍一	
昭和37年卒	津村	厚生	
昭和37年卒	咲山	武司	

心からご冥福をお祈りします。（令和4年11月1日以降にご逝去され、令和5年10月31日までに事務局にご連絡をいただいた方々です。）

白聖記念館来館者

白聖記念館来館の折には、ぜひ記帳をお願いいたします。

令和5年	近江	宮奈	
令和3年	吉田	ちひろ	
令和3年	高橋	飛陽	
平成27年	阿部	雄馬	
平成22年	藤井	隆	
平成22年	阿部	広大	
平成18年	及川	知宙	
平成9年	吉田	桂	
平成9年	柳原	央子	
平成8年	三田	慶	
平成2年	平澤	和史	
昭和61年	及川	謙大	
昭和54年	畠山	亨	
昭和53年	近江	勝教	
昭和51年	高橋	修三	
昭和48年	松本	正之	
昭和48年	杉本	聖房	
昭和48年	大槻	道夫	
昭和46年	下屋敷	正樹	
昭和41年	永山	毅	
昭和41年	大場	隆一	
昭和39年	玉懸	和夫	
昭和39年	野村	久子	
昭和37年	森	一雄	
昭和37年	牧	子保	
昭和37年	高見	祐	
昭和37年	近藤	隆	
昭和34年	松本		

令和4年11月1日～令和5年10月31日の間に記念館に来館された方々です。

事務局から

会費納入のお願い

白聖同窓会会費の納入につきましては、東日本大震災以降年間5000件を下回る状況が続いております。納入いただいた会費は、会報に掲載しております決算書の通り、同窓生相互の交流を目的とした事業に加え、全国大会や東北大会に出場する部や個人に対する部活動奨励費を始めとし、現役の一高生育成支援にも有効に活用させていただいております。

同窓生の皆さまには、会費の納入につきまして、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、今年度から従来のゆうちょ銀行での納入に加え、コンビニエンスストアでの納入とバーコード決済サービスの利用も可能とし、利便性の向上を図りました。詳しくは本会報の添書をご覧ください。

同窓会結成100周年記念行事について

白聖同窓会は令和6年に結成100周年を迎えます。通常の総会に併せて記念行事の実施を予定しております。多くの同窓生の皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。詳細につきましては、同窓会ホームページでお知らせいたします。

◎期日　令和6年10月19日（土）
◎場所　ホテルメトロポリタン盛岡本館
◎内容　記念式典、記念講演会、祝賀会（予定）

『白聖通信』第43号編集委員

編集委員（◎委員長　○副委員長）
◎川端　諒（平成14年卒）
有坂　一樹（平成14年卒）
藤村　恵玉（平成14年卒）
○内田　知代（平成15年卒）
小笠原　聡（平成15年卒）
加賀　典子（平成15年卒）
川原田　圭（平成15年卒）

常任幹事
内山　篤美（昭和49年卒）
谷地舘　勝（平成元年卒）
城守まゆみ（平成3年卒）

同窓会事務局
副校長　和田　健利
副校長　佐藤　宣昌
清武　英司（昭和57年卒）
山岸　千人（昭和62年卒）
酒井　朋聡（平成2年卒）
佐々木康裕（平成8年卒）
土谷　桃子（平成19年卒）
石田　海（平成22年卒）

同窓会事務職員
吉田美保子

太鼓マークデザイン
福田　隆（昭和10年卒）

製作・岩手日報社

白堊城点描’23





入場制限を「生徒家族可」に緩和して行われた大運動会



全国高等学校将棋竜王戦で及川理人さん（２年写真右）が３位



ＮＨＫ　Ｅテレの番組「沼にハマってきいてみた」に放送委員会が取り上げられ取材を受けました



初のきたぎんボールパークでの全校応援！



硬式野球部２年連続ベスト４



美術部　岩手広告美術展で初の学校賞受賞



佐藤綾音さん（２年）が高校生平和大使に選出され、メラニー・レジンバル国連軍縮部事務総長と国連欧州本部で記念撮影



全国大会に出場する部と個人に藤尾会長が部活動奨励費を贈呈しました



JOCジュニアオリンピック大会三段跳びで第２位に輝いた丹野正知さん（２年）



天文部の長年にわたる活動が環境大臣賞を受賞しました



達増拓也岩手県知事（昭和58年卒）による卒業生講演会



理数科２年生つくば研修